早稲田文化

早稲田大学 文化推進部年報

Annual Report of Cultural Affairs Division, Waseda University

2016

- 坪内博士記念演劇博物館
- 會津八一記念博物館
- 大学史資料センター
- 文化企画課

早稲田大学 **文化推進部年報** 2016

Contents

開催名称などによる目次 ……02
ご挨拶
文化推進担当理事 ……05
文化推進部長 ……06
坪内博士記念演劇博物館館長 ……07
會津八一記念博物館館長 ……08
大学史資料センター所長 ……09
文化事業（2016年度）
総括 ……10
研究活動・教育活動 ……11
展覧会・催し物 ……13
出品・展示協力 ……41
地域交流事業 ……42
顕彰事業 ……48
学術研究書出版制度 ……49
刊行物 ……51
オリジナルグッズ ……53
文化広報 ……55
文化施設 ……58
各種会議 ……60
人　事 ……63
統　計 ……64

文化施設マップ・連絡先一覧 …… **裏表紙**

※本年報では、紙面の都合上、坪内博士記念演劇博物館を演劇博物館、會津八一記念博物館を會津博物館と省略表記している部分があります。

表紙絵画：**藪野　健**（早稲田大学栄誉フェロー、早稲田大学名誉教授、一般社団法人二紀会副理事長、日本藝術院会員、府中市美術館館長）

開催名称などによる目次

1．総括 10

2．研究活動・教育活動 11

3．展覧会・催し物（●展覧会　●催し物） 13

演劇博物館　（展覧会開催順）…… 13

●2016年度シェイクスピア祭演劇講座「シェイクスピアのアナモルフォーズ―『ヴェニスの商人』を中心に」
○特別展「あゝ新宿―スペクタクルとしての都市」展
・ギャラリートーク①
・関連座談会「文化の街・新宿の歴史と未来～街を支えるリーダーたち～」
・関連上映会＆トーク「新宿 1968 ― 69 ドキュメンタリー / ハプニング / ジャズ」
・ギャラリートーク②
●第79回逍遙祭「いま、逍遙作品を上演すること―花組芝居版『桐一葉』をめぐって―」
○「早稲田大学芸術功労者顕彰記念　中村吉右衛門展」
・関連企画　演劇講座「中村吉右衛門講演会―古典歌舞伎の芸と心」
●多言語展示解説「enpaku 多言語ツアー」
○企画展「落語とメディア」
・トーク「柳家喬太郎×『昭和元禄落語心中』」
・ミニ落語会「エンパク寄席」※ギャラリートーク付き
・落語公演「柳家小三治一門会」
・落語公演「日本演芸若手研精会 in 早稲田」
・落語公演「新春エンパク寄席　林家正雀独演会」
○体験型展示「昔の寄席にタイムスリップ！」
○シェイクスピア没後400年記念特別展「沙翁復興 ― 逍遙から NINAGAWA まで」
・野村萬斎トークショー「狂言とシェイクスピアの出会い」
・ギャラリートーク①「日本のシェイクスピア」
・ギャラリートーク②「演劇博物館と『忘れられたシェイクスピア』」
●日本音楽学会東日本支部　第41回定例研究会　シンポジウム「映像の音楽演出と「選曲」―映画とテレビ―」
●日仏演劇国際シンポジウム「越境する　翻訳・翻案・異文化交流」
○公募研究「淡島千景資料の多角的研究―宝塚・映画・五輪・野球」成果展示　「淡島千景特集」
・上映・講演会「淡島千景と幕末の女性達」
●第３回　エンパク「青空市」
●こどものためのエンパクツアー
●日本の伝統文化体験講座〈狂言〉
●日本の伝統文化体験講座〈常磐津〉
●シンポジウム「無声期の時代劇映画と和洋合奏：ヒラノ・コレクションの時代劇伴奏曲集」
●公開セミナー「無声映画伴奏の復元へ向けて ―― 日本とアメリカの事例」
●シェイクスピア没後400年記念連続イベント　フェス早稲田シェイクスピア　演劇公演　劇団地点「ロミオとジュリエット」
○Who Dance?　振付のアクチュアリティ
●脚本アーカイブズ・シンポジウム2017「脚本アーカイブズ・デジタル活用の未来～デジタル脚本と映像を共に楽しむ方法とは～」
○2017年　新収蔵品展

會津八一記念博物館　（開催順）…… 27

○人のかたち
・ギャラリートーク
○山口八九子の画境Ⅲ
○屏風絵　―近世から近代―
○早稲田のなかの韓国美術

開催名称などによる目次

○ル・コルビュジエ　ロンシャンの丘との対話　ル・コルビュジエの現場での息吹・吉阪隆正が学んだもの
・シンポジウムⅠ「ロンシャンの丘の実測調査 ＋ ル・コルビュジエと吉阪隆正」
・シンポジウムⅡ「ロンシャンの丘との対話」
○中国陶磁の流れ
○近世の禅書画　―白隠とその会下―
○殿塚・姫塚古墳発掘60周年記念　甦る九十九里の埴輪群像　―3D考古学の挑戦―
・3D考古学の挑戦　―考古遺物・遺構の三次元計測における研究の現状と課題―
○安藤更生コレクション受贈記念　會津八一と安藤更生　―學藝の継承―
○富岡コレクションの近代絵画
○茶の道具

大学史資料センター　（開催順）…… 32
○「早稲田の通信講義録とその時代」
●「大学アイデンティティーの確認とアーカイブズの充実、そして沿革史の編纂」
○「資料が映す早稲田の今昔」
○「占領期の早稲田1945 ～ 1952―新生への模索―」
●「私立大学に於ける情報公開と文書管理」

文化企画課　（開催順）…… 34
●第７回　早稲田狂言の夕べ
○Meet the Smiles 3
●伊藤比呂美氏ワークショップ「日本の古典を現代語に訳してみる」
●Museum Week 2016
●日韓半跏思惟像展示記念　国際シンポジウム「古代日韓の仏教文化」
●多和田葉子・高瀬アキ　パフォーマンス＆ワークショップ
○渡部大語のごちゃまぜごはん的書道展
●第16回「石橋湛山記念　早稲田ジャーナリズム大賞」記念講演会　“自由思想者”石橋湛山の生涯とその思想
●早稲田大学学生によるリーディング公演　ヴェニスの商人
●世界ハンセン病デー特別企画　～明日に架ける橋～朗読劇あん
○早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業　企画展「モノを蒐めるまなざし―早稲田大学會津八一記念博物館蔵のコレクションとともに」
○パプアニューギニアとの出会い　～早稲田大学収蔵コレクション～
●第７回　早稲田学生文化・芸術祭
●早稲田文化芸術週間2016

4．出品・展示協力　41

5．地域交流事業　42

・福島県白河市 …… 白河市・早稲田大学交流事業「白河市民会館さよならイベント ～ 52年間の感謝を込めて～」
・長野県軽井沢町 …… 軽井沢町・早稲田大学交流事業「第19回おもしろ科学実験教室」
軽井沢町・早稲田大学交流事業　講演会
・佐賀県佐賀市 …… 「平成28年度　大隈祭」
・岐阜県加茂郡八百津町 …… 岐阜県八百津町交流事業「ワセダ・ヒューマニティー・コンサート'16」
・東京都 …… 「歴史的建造物の保存を支援するチャリティコンサート」
・中野区 …… 早稲田大学交響楽団「Maple Concert 2016」
「LINK ～ナカノとワセダをつなげるlive ～」
・静岡県熱海市 …… 第46回逍遙忌記念祭
・新宿区 …… 新宿区夏目漱石コンクール　読書感想文コンクール
新宿区夏目漱石コンクール　絵画コンクール
第７回　早稲田の街スプリングコンサート
文化庁補助事業「新宿から文化を発信する演劇博物館創造活動事業」

開催名称などによる目次

・千葉県鴨川市 …… 鴨川市・早稲田大学交流事業「第19回おもしろ科学実験教室」
鴨川市・早稲田大学交流事業　講演会
・岐阜県美濃加茂市 …… 第９回美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業学生公演
木立に響く逍遙　vol.7
第16回坪内逍遙大賞
第17回逍遙フォーラム
・新潟県新潟市 …… 第10回秋艸道人賞・写真コンテスト
第10回秋艸道人賞・写真コンテスト入賞作品展示

6．顕彰事業 48

・早稲田大学坪内逍遙大賞
・若山牧水青春短歌大賞（宮崎県延岡市）
・梓立祭作文・絵画コンクール（高知県宿毛市）
・旺文社主催「全国学芸サイエンスコンクール」
・小川未明文学賞（新潟県上越市）

7．学術研究書出版制度 49

8．刊行物 51

9．オリジナルグッズ 53

10．文化広報 55

・Waseda Online（ワセダオンライン）
・メールニュース
・新聞・雑誌・テレビで取り上げられた主なもの
・早稲田大学文化資源情報ポータル

11．文化施設 58

12．各種会議 60

13．人事 63

14．統計 64

・文化施設マップ・連絡先一覧・・・・・・・・・**裏表紙**

ご挨拶

文化推進担当理事　李　成市
（文学学術院教授）

早稲田文化の発信　文化推進部年報2016年度版の刊行にあたって

早稲田大学は、建学以来、積み重ねてきた歴史と伝統を通して、日本社会とその文化に貢献してきました。その蓄積は、しばしば早稲田らしさ、あるいは「早稲田文化」と称され、在学生、教職員、卒業生を含め広く早稲田関係者の誇りを醸成してきました。

文化推進部は「早稲田文化」の発信の中心的な役割を担うとともに、学生・校友・地域へと、広く開かれた連携による「知」の共創と創発を図りながら社会に貢献することを目指し、2007年に設置されました。従来から独自に展開してきた坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館、大学史資料センターの三機関に、文化推進部直属の事務組織として文化企画課を加え、それぞれが独自の役割を担いつつも、それらが早稲田における「文化の束」として一体となって活動をしています。

早稲田大学では、国宝２件、重要文化財７件、重要美術品８件を含む美術品、書画、博物資料、図書資料、映像資料など、約500万点以上を所蔵していますが、これらは早稲田文化の核をなす貴重な文化資産です。文化推進部ではこれらの資源の公開と活用にも積極的に努めています。

文化活動を展開する上で充実した文化施設は不可欠ですが、大隈記念講堂や小野記念講堂での各種事業の実施や運営にも取り組んでいます。2014年９月には学内外に早稲田大学の歴史と未来を発信する拠点である「ワセダギャラリー」をリニューアルオープン、2015年４月には27号館１階を改修してショーウィンドウスペースを創設するなど、文化活動の拠点も拡大させてきました。更に、2018年３月開館を目指して本学の歴史（過去・現在・未来）に係る情報や資料などを展示して本学の持つ個性や魅力を学内外に広く発信する施設として早稲田大学歴史館（仮称）を、また、2019年３月開館を目指して新しい早稲田アリーナ内にスポーツミュージアムを設立する予定でいます。

早稲田大学では、2032年の創立150周年に向けて中長期計画「Waseda Vision 150」を策定し、理想の大学像を打ち立てるための各種プロジェクトを検討・実施しており、文化推進部でも「早稲田らしさと誇りの醸成をめざして―早稲田文化の推進」を核心戦略のひとつに掲げています。

早稲田文化を早稲田の内外、特に、外から見たとき、それは早稲田らしさと結びつきます。早稲田らしさが語られるとき、早稲田の関係者は、早稲田への帰属意識と誇りをあらためて感じることになります。「早稲田らしさと誇りの醸成をめざして―早稲田文化の推進」の目的は、１．早稲田文化とは何かをあらためて確認するとともに、その充実と展開のプロセスを明らかにすること、２．早稲田文化を早稲田らしさの評価につなげ、その評価を高めること、３．早稲田の誇りの一層の醸成にあり、各目的の実現を通して新たな文化の創成への寄与を目指しています。この目的の実現のために７つのプロジェクトを立ち上げ、独創的な事業に取り組んでいます（①文化・芸術の推進とキャンパスからの文化発信プロジェクト、②地域との連携による文化発信と施設の有効活用プロジェクト、③バーチャルミュージアム―文化資源データベース公開の強化・拡充プロジェクト、④早稲田大学百五十年史編纂プロジェクト、⑤早稲田スポーツの新たな展開プロジェクト、⑥早稲田らしさと誇りの探求プロジェクト、⑦ワセダ演劇の発信力強化プロジェクト）。

☆

社会における大学の存在意義は、何よりもまず教育・研究にあるのはもちろんですが、そこから創出される「文化」の力を発信することにより、大学と社会の結びつきをより強め、ひいては社会の豊かさに貢献する、そこに文化推進部の真にして無二の役割がある、と確信しております。東西古今の「文化の潮」が渦巻く早稲田からの力強い文化発信と、早稲田の文化を未来の世代へ承け継ぐことが私どもの大切な使命であると考えています。

「早稲田文化」は「スポーツ」や「科学」などを含む幅広い分野からなり、学生、卒業生の活動・活躍も早稲田文化の重要な構成要素です。また、本学の校友だけではなく、広く社会一般の方々にも理解、共感を得て、早稲田文化を拡げて行きたいと考えています。今後とも本学の文化事業へのご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

ご挨拶

文化推進部長　十重田　裕一
（文学学術院教授）

文化推進部の動き（2016年度）

本学文化推進部は、早稲田文化の魅力ある発信を目指して、2016年度も多種多様な文化事業を実施して参りました。文化推進部として推進する事業は、大きく分けて「大学施設を利用した文化事業」と、「地域交流事業として主として学外において実施する文化事業」の２つとなります。

前者としては、４月恒例の、人間国宝で2015年に文化功労者顕彰を受け、早稲田大学芸術功労者の野村万作様、ご子息の野村萬斎様による「早稲田狂言の夕べ」、学生が主体的に演劇・映画・音楽などの活動を企画運営する、６月開催の「早稲田学生文化・芸術祭」、10月の創立記念日の前後に、大学の教職員や大学内各箇所が主催する「早稲田文化芸術週間」が主としたものとなります。このうち、「早稲田文化芸術週間」については、早稲田キャンパスおよびほかのキャンパスにおいて全44イベントを展開し、総来場者数もついに20,000人を超える一大イベントに成長しました。

また、大学が過去から積み上げてきた文化資産を学生にもっと知ってもらいたいという思いから、2015年度より、大学内の文化施設（坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館、大学史資料センター）が収蔵する文化・情報資源をより積極的に利用・活用してもらえるきっかけとなるよう、６月に「Museum Week」を展開しています。これらは、各施設を利用してコンサートなどを行う「Museum LIVE」、各施設を専門担当者が案内する「Museum Tour」、そして学内各文化施設を横断して展開する「Museum Stamp Rally」からなり、一般の方を含め多くの方から好評を得ています。

後者の「地域交流事業」については、2016年度も以下のような展開を行いました。

- 福島県白河市　「白河市民会館さよならイベント　～52年間の感謝を込めて～」
- 千葉県鴨川市　おもしろ科学実験教室
- 東京都新宿区　第６回　早稲田の街スプリングコンサート
- 東京都中野区　早稲田大学交響楽団「Maple Concert 2016」「LINK～ナカノとワセダをつなげるlive～」
- 長野県軽井沢町　おもしろ科学実験教室
- 岐阜県八百津町　「ワセダ・ヒューマニティ・コンサート'16」
- 岐阜県美濃加茂市　早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業学生公演「上海標本日記」

2017年度は周年事業として新たな取組みも企画しており、更なる展開をできるものと考えております。

以上の取り組みのほか、大隈記念講堂、小野記念講堂、ワセダギャラリー、125記念室などを活用し、数多くの企画展示を実施していますが、2016年度の特筆すべき取り組みとして、2017年３月22日から行った「パプアニューギニアとの出会い」展が挙げられます。早稲田大学では、パプアニューギニアの精霊像や仮面、楯や槍などの武具、土器や木器などの日用品をはじめ多岐にわたる資料1,089点を所蔵しています。その中には、現在では制作されなくなった作品も多く、大変貴重な資料群であるといえます。本展覧会ではそのうちおよそ60点を展示するほか、本学考古学研究室によるパプアニューギニア現地調査活動についても紹介する充実したものとしています。開催初日は、ガブリエル・ドゥサバ駐日パプアニューギニア独立国大使が来校され、本学鎌田薫総長とともに展示をご覧になった後、展覧会開催記念レセプションにも出席されるなど、注目の高さが現れるスタートとなりました。

文化推進部の関係三機関（坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館、大学史資料センター）も、活発な活動を行うとともに、特色のある取り組みを展開しています。

坪内博士記念演劇博物館では、さまざまなテーマのもと企画展を開催し、各企画展にあわせて講演会、ギャラリートークといったイベントも行うことで多くの方々が来場されました。また、研究面においても、文部科学省より演劇映像学連携研究拠点の指定を受け、日本の演劇の拠点としての活動を展開しております。また、多くの外部資金で研究活動を続けております。

會津八一記念博物館では、大学が所蔵する文化財・美術品を展示している常設展示や見応えのある陶磁や書画を集めた富岡重憲コレクション、また、企画展示に加えてのギャラリートークなども実施し、好評を得ています。

大学史資料センターでは、本学の歴史に関する企画展示を開催するとともに、「早稲田大学百五十年史」編纂委員会の活動も順調に進行しています。

本年報には、これら文化推進部関係諸機関において行われたさまざまな文化活動の詳細を掲載していますので、ご参照ください。

早稲田大学では、大隈記念講堂、小野記念講堂、ワセダギャラリーなどを活用し展開する数々のイベント情報を、文化推進部ホームページ、メールニュースを中心に発信し、多くの方に知っていただくよう努めていますが、地方にお住まいなどの理由でなかなか大学にお越しになれない方もおられますし、大学には公開されていない多くの貴重資料が収蔵されています。大学では、これらの貴重資料を多くの方にご覧いただくことができるよう、また学術的な研究にも役立てられるよう、インターネットを活用した「文化資源データベース」の整備を進め、その公開を目指しているところです。

今後とも本学の文化事業へのご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

ご挨拶

坪内博士記念演劇博物館館長　岡室　美奈子
（文学学術院教授）

2016年度の演劇博物館（エンパク）

おかげさまでエンパクこと演劇博物館は、2016年度も多彩な活動を展開することができたことを、まずはご報告申し上げたい。

まず、春季特別展「あゝ新宿―スペクタクルとしての都市」と秋季企画展「落語とメディア」に加え、早稲田大学芸術功労者顕彰記念「中村吉右衛門展」は、テレビ、ラジオ、新聞、ネットニュースなど、数多くのメディアで取り上げられて大きな話題となり、年間５万人以上の皆様にご来館いただくことができた。「あゝ新宿」展は、エンパクとしては初めての横断的展示で、新宿梁山泊の舞台美術や浅草九劇の設計を手掛けられた建築家の大塚聡氏に空間デザインをお願いし、60年代・70年代の新宿の熱気を再現していただいた。「落語とメディア」展では、展示室に昔の寄席部屋を再現して会期中にエンパク寄席を開催し、入りきれないほどのお客様にご来場いただくことができた。イベントも、柳家小三治師匠、中村吉右衛門丈という人間国宝のお二人をはじめとして、田原総一朗氏、山下洋輔氏、柳家喬太郎師匠ら豪華ゲストをお招きすることができ、ほとんどのイベントで大隈記念講堂大講堂が満席となった。小三治師匠の「千早振る」、喬太郎師匠の「死神」、山下洋輔さんのジャズピアノ「グガン」、いずれも思い出すだけで鳥肌が立つ名演であった。国際会議場井深大記念ホールで開催した、吉住新宿区長、並びに紀伊國屋書店、新宿高野、新宿中村屋の経営陣、鎌田早大総長にご登壇いただいた新宿展の座談会も多くの学生や新宿区民の皆様にお越しいただいて大盛況となり、これからも新宿文化の発展におよばずながら貢献していきたいという思いを新たにした。

また、シェイクスピア没後400年にあたる2016年、エンパクは本学文学学術院とともに、シェイクスピア研究の世界的拠点であるシェイクスピア研究所（専門大学院）を擁するバーミンガム大学と学術連携の覚書を交わした。この機会に早稲田大学では「フェス早稲田シェイクスピア」と銘打って講演会や国際カンファレンスを開催したほか、大隈講堂での劇団地点による公演「ロミオとジュリエット」を実現させるなど、大学を挙げて多彩なイベントを行った。その一環として、演劇博物館でもシェイクスピア展「沙翁復興 ― 逍遙からNINAGAWAまで」を開催した。この展示に合わせて刊行した冊子には、シェイクスピア研究所所長のマイケル・ドブソン氏にご寄稿いただくことができ、今回の覚書締結により、シェイクスピア研究の国際的拠点としてさらに充実した活動を展開していきたい。

また、2015年度秋季企画展「Who Dance?　振付のアクチュアリティ」展が横浜赤レンガ倉庫に招聘され、2017年２月の横浜ダンスコレクションの開催に併せて、再構成ヴァージョンを展示できたのも嬉しい出来事だった。世界のダンスファンの皆様にご覧いただくことができ、ご関係の皆様にこの場を借りて心から御礼申し上げる。

展示以外にも、エンパクは多様な活動を行った。「演劇映像学連携研究拠点」（文部科学省共同利用・共同研究拠点）は、従来の研究チームによる館蔵資料の研究に加え、2016年度より「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業機能強化支援」に採択され、若手研究者の国際学会派遣事業やくずし字OCRの開発事業に着手するなど、これまで以上に海外発信と人材育成に力を入れることができるようになった。日本学術振興会科学研究費研究成果公開促進費によるデジタル・アーカイブ事業では、立体資料の3Dデータの充実など最先端の活動を行っている。さらに、文化庁補助金による「新宿から文化を発信する演劇博物館創造活動事業」では、特別支援学校での古典芸能体験授業など充実した活動を行い、地域文化の発展に微力ながら貢献することができた。また、同じく文化庁補助金による「舞台芸術・芸能関係映像のデジタル保存・活用に関する調査研究事業」では３年間の活動のまとめとして、『舞台記録映像の保存状況に関するアンケート調査報告書』と『舞台記録映像保存・活用ハンドブック』を発行した。とりわけ後者は、著作権専門弁護士の福井健策氏による舞台映像のデジタル化をめぐる著作権処理のガイドや、映像記録保存媒体についての解説が収録されており、各劇団や劇場にとっては保存版である。有効活用していただければ幸いである。

2017年度は、５月13日から８月６日まで、文化庁の後援、在京キー局各社の協賛・協力をいただき、企画展「テレビの見る夢――大テレビドラマ博覧会」と早稲田大学芸術功労者顕彰記念「山田太一展」を開催する。エンパク初の本格的なテレビ展となるので、ぜひとも成功させたい。また、６月３日から７月２日まで、株式会社新宿高野のご厚意により、新宿展第２弾「あゝ新宿――アングラ×ストリート×ジャズ」を新宿東口駅前の新宿高野本店で開催するはこびとなった。ダンス展に続いて、大学の枠を超えてより多くのお客様にご覧いただく機会をいただき、館員一同張り切っている。

末尾ながら、皆様に重要なお知らせをさせていただく。2018年にエンパクはおかげさまで創立90周年を迎える。この機会に常設展をリニューアルするとともにさまざまな補修を行うため、2017年８月７日より2018年３月22日まで閉館させていただく。皆様にはご迷惑とご不便をおかけするが、何卒ご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げる次第である。

ご挨拶

會津八一記念博物館館長　塚原　史
（法学学術院教授）

2016年度のAIZU MUSEUM――會津八一記念博物館の活動

関係各位にはすでに周知のことだが、會津八一記念博物館は、今井兼次設計の旧図書館（といっても在学生や最近の卒業生は知る由もないが、もちろん現２号館）の特色ある建物に、八一と旧東洋美術陳列室の伝統を継承する「東洋美術」、本学の戦前からの考古学研究の成果を引き継ぐ「考古学（資料）」、作家自身や篤志家の御寄贈を中心とする「近代美術」の三分野を主柱とした常設展示室（旧図書館閲覧室）、富岡重憲氏由来の「富岡コレクション」専用の「富岡展示室」、そして年度ごとの新企画を展示する「企画展示室」を擁し、各分野の研究員・助手（全員学芸員）が中心となって展覧会・特集展示を開催している。

このような多岐にわたる活動が社会的にも少しずつ知られるようになったせいか、最近の傾向としては入館者数の着実な増加が見られ、2016年度には４万人を超えて前年度に比して１万人以上多くの学内外、国内外の皆様に来館いただくことができた。1998年創立以来数年前まで、年間入場者数は１万人余りで推移していたが、ここ２、３年の増加は著しく、アジア諸国を中心に海外からの来館者も増えており、大学の文化推進にささやかな貢献を果たしていることを喜びたい。こうした活況をもたらしたのはやはり多彩な企画展・特集展示の開催に負うところが大きく、今年度開催された主要な展覧会は以下のとおりであった。

☆

（企画展示室）

・５月11日～６月18日：山口八九子の画境Ⅲ（これまで未公開であった作品を展示すると同時に代表作「牡丹図屏風」を11年ぶりに展示）
・６月29日～８月７日：ル・コルビュジエ　ロンシャンの丘との対話　ル・コルビュジエの現場での息吹・吉阪隆正が学んだもの（早大ル・コルビュジエ実測調査研究会制作の実測図を公開すると共に、《ロンシャンの礼拝堂―ノートルダム・デュ・オー礼拝堂》に残された現場でル・コルビュジエが実際に使用した吉阪協力の貴重な青写真を展示。なお、今井兼次は旧図書館設計に先立ちパリでル・コルビュジエ邸を訪問している。）
・10月14日～11月19日：殿塚・姫塚古墳発掘60周年記念　甦る九十九里の埴輪群像　―３Ｄ考古学の挑戦―（殿塚・姫塚古墳の発掘60周年を記念する展示。九十九里地域の人物埴輪にスポットをあて、三次元情報を活用した埴輪研究の現在を紹介）
・11月28日～2017年１月21日：安藤更生コレクション受贈記念　會津八一と安藤更生　―學藝の継承―（安藤更生コレクションの受贈を記念して、會津八一と高弟安藤更生に関わる作品資料を紹介）

（富岡展示室）

・５月11日～６月25日：屏風絵　―近世から近代―（江戸時代前期の作とされる「樹木図屏風」や「許由巣父図屏風」、明治期の「山水図屏風」など屏風装の作品を中心に展示）
・７月６日～９月23日：中国陶磁の流れ（新石器時代の「彩陶渦巻文双耳壺」から明清時代の五彩や青花あるいは単色釉の作品まで中国陶磁史の流れを展示）
・10月４日～11月19日：近世の禅書画　―白隠とその会下―（富岡コレクションのほぼ３分の１を占める近世禅書画より、白隠とその弟子たちによって描かれた禅書画を展示）
・12月１日～2017年１月31日：富岡コレクションの近代絵画（矢部友衛の「裸婦」、近年寄贈された矢部の戦後の代表作「平和署名」、満谷国四郎の「バルコニー」などの油彩画、橋本雅邦、下村観山、橋本関雪による日本画を展示）

（特集展示・常設展示室）

・５月９日～６月22日：富岡コレクション古代エジプトの名品（これまで展示機会が少なかった国内指折りの古代エジプトの名品を展示）
・６月29日～８月７日：チューリッヒ・ダダ100周年―ダダイスト・ツァラの軌跡と荒川修作（ダダ運動の機関誌DADAの初版オリジナル全号（早稲田大学図書館蔵）、ダダの創始者ツァラ関連初版本・ピカソのリトグラフ、ルーマニアのダダ関連資料、ネオダダに参加した荒川修作の版画などを展示）
・９月１日～10月15日：門神と対聯　―暮らしを彩る書画―（中国の人々の暮らしを守り彩ってきた厄除けの門神や吉祥句などを書いた対聯を展示）
・10月24日～11月30日：正宗得三郎の扇面（正宗得三郎次男正宗幹夫氏から受贈した二紀会の重鎮画家正宗得三郎の扇面19面を展示）
・12月８日～2017年１月31日：チベット仏教の美術（會津八一コレクション、服部和彦コレクションを中心とする館蔵品から、チベット仏教美術のサッチャ／ツァツァとよばれる土製の仏像と小金銅仏を展示）
・2017年３月１日～４月22日：2016年度會津博への贈り物（新たに受贈した作品や関連資料を中心に展示―北蓮蔵「提督の最後」、穴澤コレクションの銅鏡など）
・2017年４月１日～４月22日：「會津八一の歌を映す」第10回秋艸道人賞写真コンテスト入賞作品展示（新潟市會津八一記念館常設展示の他、早稲田大学會津八一記念博物館、奈良県立図書情報館、奈良県斑鳩町いかるがホールなどで巡回展示）

なお、これらの展示にあわせて専門の学芸員によるギャラリートークを随時開催しており、會津八一の「実物尊重の教育・研究」の思想を踏襲して実作品の前で作品解説を行い、好評を博している。

他に、2016年度は早稲田実業学校初等部５、６年生の早稲田キャンパス訪問に伴い、早実の小学生たち200余名が博物館を訪れた（12月９日、2017年３月８日）。

☆

ところで、「近代美術」といっても會津博では従来日本の近代美術にほぼ限られていたのだが、2016年度は「ル・コルビュジエ　ロンシャンの丘との対話展」と「チューリッヒ・ダダ100周年―ダダイスト・ツァラの軌跡と荒川修作」を開催することができ、とりわけ後者は16年度がチューリッヒ・ダダ誕生100周年だったこともあってメディアの注目を集め、朝日新聞、日本経済新聞、NHKニュースなどで取り上げていただいた。このような展覧会が実現したのは、ル・コルビュジエ展の場合、本学理工学術院創造理工学部建築学科、同創造理工学研究科建築学専攻を中心とする皆様のご尽力のお蔭であり、ダダ100周年展は本学図書館のご協力の賜物である。末筆ながら、改めて感謝の意を表しておきたい。

大学史資料センター

ご挨拶

大学史資料センター所長　大日方　純夫
（文学学術院教授）

大学史資料センターの動き（2016年度）

大学史資料センターは、早稲田大学の歴史、創設者大隈重信および関係者の事績を明らかにし、これを将来に伝承するとともに、比較大学史研究を通じて、本学の発展に資することを目的としています。また、「早稲田学」を開設して大学教育の一環としての自校史教育を担い、百五十年史編纂事業の事務局としてその中心事務を担当しています。

(1) 資料の収集・整理・保存・公開とレファンス

引き続き本学の文書および本学関係者に関する資料を収集・整理して、保存・公開をすすめました。2016年度は、個人・団体からの寄贈37件850点、本学各箇所からの移管12件122点がありました（新収資料の合計は972点）。刊行物・テレビなどへの資料の掲載希望や所蔵写真の使用に関する許可申請は2016年度も多数あり、それぞれについて可否を判断しました。

所蔵資料のデータベースとしては、すでに科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の助成をうけた「保守と革新の近現代史データベース」で「堤康次郎関係資料」と「日本社会党関係資料」の資料画像を公開していますが、2014年度からは科学研究費補助金による「社会運動情報資源データベース」としてデータベース化事業の継続をはかっています。2016年度もこれを継続して、「堤康次郎関係資料」と「日本社会党関係資料」のデータベース化を推進しました。

(2) 企画展示・講演会等の開催

①**大隈記念室**（２号館１階）：2007年10月にリニューアルした常設展示により、大隈重信の遺品類や厳選した資料を通して大隈の生涯を描いています。2016年度は、８月８日から31日と冬休み・入試期間を除いて開室し、21,315人の入場者がありました。

②**春季企画展**：早稲田大学が創立当初から精力的に取り組んだ校外教育事業にスポットをあてた「早稲田の通信講義録とその時代　1886―1956」を、2016年３月22日から４月23日までの１ヵ月間、會津八一記念博物館企画展示室で開催しました。『読売新聞』『朝日新聞』に紹介記事が掲載され、『日本経済新聞』でも取り上げられて、多くの方々に来場していただきました（2,864人）。なお、春季企画展は、例年、３月の卒業式から新入生を迎える４月の時期に開催していますが、2017年は事情により中止としました。

③**受贈資料展**：６月下旬から８月初めにかけ、前年度に校友・大学関係者などから寄贈された資料の一部を展示するとともに、資料を通して本学のあゆみを紹介しています。2016度は、６月17日から８月７日まで、「資料が映す早稲田の今昔」と題し、26号館（大隈記念タワー）125記念室で開催しました（入場者1,261人）。

④**秋季企画展**：ホーム・カミングデーと創立記念日の時期を中心に、本学の歴史に関する企画展を開催しています。2016年度は、「占領期の早稲田1945 ～ 1952―新生への模索―」と題して、７年近くにわたる戦後占領期に焦点をあて、９月30日から11月６日まで、26号館（大隈記念タワー）125記念室で開催しました（入場者1,109人）。なお、展示内容は、『毎日新聞』『読売新聞』『共同通信　47NEWS』などで取り上げられました。

(3) 出版・刊行事業

『早稲田大学史記要』を年１回、発行しています。2016年度は、第48巻（Ａ５判、462ページ）を発行し、また、Web（図書館運営の「早稲田大学リポジトリ」）で公開しました。同巻は、論文２本に加え、昨年度開催した『大隈重信関係文書』完成記念関係のシンポジウム「大隈に手紙を寄せた人々―大隈重信へのまなざし―」の３報告や、「大学史セミナー」（後述）の講演録（第１回・第２回）を収録し、また小特集「アジア太平洋戦争と早稲田大学」を組むなど、豊富な内容となっています。さらに、元総長の西原春夫先生からの聞き取り記録も掲載していますので、是非手に取ってお読みください。

(4) 自校史教育の展開

①**「早稲田学」**：本年度も、グローバルエデュケーションセンター設置科目として「早稲田学」を開講し、学生に対して早稲田大学の歴史を講義しました。春学期は「近代史のなかの早稲田大学」（登録者57名）、秋学期は「創設者大隈重信と建学者たち」（登録者94名）を講義しました。なお、2017年度からのクォーター化に向け科目の編成替えに取り組みました。

②**新入生向け教育プログラム**：オンデマンド講義「わせだライフABC ～充実した学生生活を送るために～」のテーマ８「早稲田大学の歴史」を担当しました（視聴者332名）。

(5) 百五十年史編纂事業

大学史資料センターが事務を担当し、事業の推進にあたっています。第１巻については、構成案の検討を中心に第１次草稿の編集作業を進めて、新たに設置された編集会議で執筆分担などを協議しました。学内外の資料の調査・収集をすすめるとともに、法人会議資料の目録化・デジタル化を推進し、また、大学関係者への聞き取り調査も実施しました。「Web版資料集」の編集・公開事業として、「早稲田人名データベース」の追加・公開、「戦争犠牲者データベース」の公開準備、『早稲田大学百年史』のデジタル化・Wiki化の作業を進めました。

昨年度からスタートした「大学史セミナー」は、編纂事業の本格展開とあわせて、本年度、２回開催しました。６月開催の第２回には、東京大学・立教大学・桜美林大学名誉教授の寺崎昌男氏に「大学アイデンティティーの確認とアーカイブズの充実、そして沿革史の編纂」と題して講演していただき（出席者65人）、2017年１月開催の第３回には、本学法学学術院教授の浅古弘氏に「私立大学に於ける情報公開と文書管理」と題して講演していただきました（出席者39人）。

(6) 共催・協力事業

各地域・団体の要請に応える協力事業として、例年通り佐賀市大隈記念館の「大隈祭」（５月８日）に講師を派遣しました。また、各種の展示企画などにも協力しました。

文化事業

文化事業総括

早稲田大学では、本学が持つ有形・無形の文化資産をもって、文化面においてもリーディングユニバーシティであるよう、具体的な目標を掲げて活動を行っています。それらの取り組みは、本学が一丸となって行っている“Waseda Vision 150”の大きな柱のひとつとして位置付けられており、学内各箇所が個別に実施してきた文化事業活動に優先・重点事業を設定し、より高い文化力を発揮できるように取り組んでおります。

1．“Waseda Vision 150”への取り組み

本学では、アジアのリーディングユニバーシティとして確固たる地位を築くための中長期計画“Waseda Vision 150”を策定しました。これは、本学が創立150周年を迎える2032年に、①世界中から、世界に貢献する高い志をもった学生が早稲田に集い、②世界の平和と人類の幸福の実現に貢献する研究が行われ、③早稲田大学の卒業生（校友）が、世界の至る所で、また、あらゆる分野で、グローバルリーダーとして社会を支え、かつ、早稲田大学と緊密な協力関係を築いており、そして、④早稲田大学がアジアのモデルとなりうる運営体制を確立しているという姿（ビジョン）を思い描き、そのビジョンの実現に向けて、いま何をなすべきであり、何をなすことができるかを考え、13の核心戦略とそれを実現するための具体的なプロジェクトなどを提示したものとなっています。

文化推進部は、「核心戦略６　早稲田らしさと誇りの醸成をめざして―早稲田文化の推進」を担当し、現在７つのプロジェクトを実施。2017年度までのSTAGE１終了に向け、2016年度も各プロジェクトは概ね当初の計画どおりに順調に事業を遂行しました。

【７つのプロジェクト】

1）文化・芸術の推進とキャンパスからの文化発信プロジェクト
2）地域との連携による文化発信と施設の有効活用プロジェクト
3）バーチャルミュージアム―文化資源データベース公開の強化・拡充プロジェクト
4）早稲田大学百五十年史編纂プロジェクト
5）早稲田スポーツの新たな展開プロジェクト
6）早稲田らしさと誇りの探求プロジェクト
7）ワセダ演劇の発信力強化プロジェクト

http://www.waseda.jp/keiei/vision150/index.html

2．キャンパスのミュージアム化と世界に向けての文化発信　―早稲田の文化を未来の世代へ―

早稲田大学は、1882年の創立以来、坪内逍遙らを嚆矢とする文学研究や、図書館・博物館における文化的資料の収集・公開を進めるとともに、芸術家、小説家、批評家、演劇人、映画人など、文化の発展に寄与する多くの人材を輩出してきました。また、国宝２件、重要文化財７件、重要美術品８件を含む図書、図書資料、美術品、書画、博物資料、映像資料、記録文書類など、約500万点以上を所蔵しています。これらの「早稲田文化」の資源の公開と活用をとおして、大学の使命のひとつである「社会貢献」を果たしてきました。価値観の多様化、広範な異文化間の交流、多文化社会の形成により、現在、早稲田大学の文化的使命はますます大きくなっていると認識しています。

こうした社会状況の中で、文化推進部では以下の２つの事業に積極的に取り組んでいます。

(1) 地域社会に開かれたキャンパスそのものをミュージアムにする

学生・教職員、卒業生のみならず来校する方々の知的関心を満たすキャンパスづくりを行う事業。絵画や彫刻の実物にふれることができるとともに、研究者や大学院生、学生の文化活動を直接目の前にして共有できる空間があり、早稲田らしさを感じ、早稲田に愛着を持てる空間を創ります。2014年９月には学内外に早稲田大学の歴史と未来を発信する拠点である「ワセダギャラリー」をリニューアルオープン、2015年４月には27号館１階を改修してショーウィンドウスペースを創設するなど、着実に文化活動の拠点を拡大してきました。更に、2018年３月開館を目指して本学の歴史（過去・現在・未来）に係る情報や資料などを展示して本学の持つ個性や魅力を学内外に広く発信する施設として早稲田大学歴史館（仮称）を、また、2019年３月開館を目指して新しい早稲田アリーナ内にスポーツミュージアムを設立する予定でいます。

(2) バーチャルミュージアムを実現し、世界に向けて文化発信する

早稲田大学の文化資源を、先端技術による三次元などの仮想空間の中で、実際には「触れる」ことが難しい美術工芸品を生き生きとした姿で再現させ、これまでにない新たな文化体験ができる、それがバーチャルミュージアムです。実現すれば、早稲田のキャンパスに限定されることなく広く世界中で早稲田の文化資産に接することができるようになります。東西古今の「文化の潮」が渦巻く早稲田からの力強い文化発信と、早稲田の文化を未来の世代へ承け継ぐことが文化推進部の使命であると考えています。

本学創立以来、130年を越える歴史の中で培ってきた膨大な実績と取り組みをまとめ、そして今後も発信していくには、大きな費用がかかるのもまた事実です。そのため2014年度より「早稲田文化振興」のための募金活動を開始しました。今後もより多くの方々にご賛同をいただきたく、ご理解の程をよろしくお願いいたします。

1．坪内博士記念演劇博物館

(1) 研究活動

①共同利用・共同研究拠点「演劇映像学連携研究拠点」

事業の趣旨

演劇映像学連携拠点は、2009年度から2013年度まで、文部科学省より「共同利用・共同研究拠点」として認定を受け、「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」を実施してきた。その実績が評価され、2014年度には再認定を受け、現在第２期の研究活動を推進している。

第２期においては、演劇博物館に収蔵されながらいまだ十分に学術的に活用されていない貴重な未発表資料群を研究資源として提供するという方針を打ち出した。この方針に沿って、未発表資料群のリストをウェブページ上で公開して研究課題を公募し、厳正な審査により４件を採択することによって、テーマ研究１件と併せて５チームが研究活動を行ってきた。2016年度は、審査の上採択された継続課題３件と新規課題２件によって研究が進められた。

研究課題　※括弧内は研究代表者

(1) テーマ研究　１課題
- 坪内逍遙・坪内士行資料の基礎的調査研究（濱口久仁子）

(2) 公募研究　４課題
- 楽譜資料の調査を中心とした無声期の映画館と音楽の研究（長木誠司）
- 演劇博物館所蔵の映画館資料に関する複合的カタロギング（上田学）
- 淡島千景資料の多角的研究―宝塚・映画・五輪・野球（羽鳥隆英）
- 視覚文化史における幻燈の位置―明治・大正期における幻燈スライドと諸視覚文化のインターメディアルな影響関係にかんする研究（大久保遼）

特色ある共同研究拠点の整備推進事業　機能強化支援

当拠点はさらに平成28年度より新たに文部科学省の補助金「特色ある共同研究拠点の整備推進事業　機能強化支援」を獲得した。膨大な学術資料を利用できる当拠点の特色を最大限に活かし、海外の大学や研究機関との連携強化やデジタルアーカイブ化の促進と利活用を通じて、国際的な学術交流および国際的発信力の向上と若手研究者の育成に努め、新しい研究基盤を構築することを目指している。本事業は以下の４つの柱からなる。

■海外大学との連携と人材育成

世界的に知られる演劇関連研究機関と連携を図り、学術資料の共有や共同研究の推進、国際シンポジウムの開催や、国際学会での研究発表助成を通じて人材交流および若手研究者の育成を推進している。バーミンガム大学付属のシェイクスピア研究所との交流や、ストラスブール大学／アルザス欧州日本学研究所との連携による日仏演劇国際シンポジウム「越境する　翻訳・翻案・異文化交流」の開催などに加え、若手研究者を全国から公募し、海外での研究発表を促進する「若手研究者海外派遣事業」を進め、１件の助成を行った。

■「くずし字OCR」を活用した総合的古典籍データベースの構築

演劇関連古典籍の世界有数規模のコレクションを活用し、「くずし字OCR」技術を用いて新たな研究促進環境を整備し、古典籍関連データベースを強化している。本年度は浄瑠璃丸本『仮名手本忠臣蔵』の字形データセット（約48,000字）や番付の姓名データセットを作成し、直観的に資料と翻刻テキストを閲覧できる画期的な新表示システムを活用して、これを公開した。

■歌舞伎・人形浄瑠璃関係雑誌のデジタルアーカイブの構築

演劇博物館が所有する演劇雑誌のデジタル閲覧を進展させることで、稀少性が高い資料の保存と研究への利活用の両立を目指す。対象雑誌として、『オペラ』（1919～1924年）、『新演芸』（1916～1925年）、『演芸画報』（1907～1943年）など参照性が高く貴重な演劇雑誌を選定し、本年度は『新演芸』のデジタルデータの整備と館内公開に着手した。

■演劇映像関連資料のデジタル化と共有化

演劇博物館が多数所蔵する一次資料（台本、草稿、非フィルム媒体の映像関連資料など）のデジタル化と公開による資料の共有化を促進し、演劇映像の国際的な学術交流の場となる新しいデジタルアーカイブのかたちを提起している。本年度は、草創期テレビ台本データベースと、伊藤道郎関連資料データベース（ウェブ公開271件）の整備・公開を行った。

②文化庁平成28年度美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業「舞台芸術・芸能関係映像のデジタル保存・活用に関する調査研究事業」

事業の趣旨

演劇博物館は、平成26年度に文化芸術振興費補助金（美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業）に採択され、「舞台芸術・芸能関係フィルムのデジタル保存・活用に関する調査研究事業」を行ってきた。当事業の主たる目的は舞台芸術・芸能関係の記録映像に適した保存媒体や保存方法を見いだし、デジタル化と長期保存の方法について、現時点で実現可能な一定の方針を打ち出すことにある。また、その活用方法についてもモデルプランを作成し、上記の指針とともに各劇団や施設に対して提案し、貴重な文化資源でありながら残存率の低い舞台芸術・芸能関係の保存と活用を促進し、未来への継承を推進していくことを目指す。

■「舞台記録映像の保存状況に関するアンケート調査報告書」作成

■「舞台記録映像保存・活用ハンドブック」作成

平成26・27年度に劇団・劇場など文化施設を対象として実施した、舞台記録映像の保存状況に関するアンケート調査の結果とその分析を報告書としてまとめた。アンケート調査から明らかになったのは以下の３点。(1) 舞台記録映像の多くが未整理のままに置かれており、そのため実態の把握が困難である。(2)VHSなど、現在は流通していないメディアに保存された映像記録も多く、デジタル変換の実施は一部に留まっている。(3) 著作権の問題から活用困難な資料が多数存在する。上記の状況を踏まえ、今後舞台記録映像を保存・活用していくための指針として、映像保存媒体の性質や舞台映像の著作権に関する基本的な知識を概説した「舞台記録映像保存・活用ハンドブック」を作成し、報告書とともに配布した。

■劇団・劇場などが所蔵する舞台映像資料の調査

アンケート調査では把握しきれない舞台映像資料の保存状況の実態を調査するため、実地での資料調査を実施した。平成28年度は故扇田昭彦氏所蔵の映像資料や劇団地点所蔵の映像資料などを主な対象とし、リスト化と一部の試験的デジタル化を実施した。

2. 會津八一記念博物館

(1) 研究活動

①中国書法史（漢代から唐代の石刻資料を中心に）
②狩野派、特に山下狩野家周辺の研究
③土器型式の民族考古学的研究

(2) 教育活動

①レクチャールームで行う博物館実習への支援
②文学学術院、教育・総合科学学術院、理工学術院などの授業の補完
③修学旅行、課外学習など見学者の受け入れ
④エクステンションセンター受講生などの受け入れ

3. 大学史資料センター

(1) 研究活動

①科学研究費（研究成果公開促進費）：社会運動情報資源データ
②早稲田大学百五十年史編纂
③大隈重信および関係者の実績の研究
④比較大学史研究：高等教育研究をはじめとする比較大学史
⑤大学行政文書の管理保存体制：大学アーカイブズ機能
⑥所蔵・寄贈資料の調査研究
⑦大学史セミナー

(2) 教育活動

①早稲田学：グローバルエデュケーションセンター設置科目
②わせだライフ ABC ～充実した学生生活を送るために～：新入生向け教育プログラム
③中・高校生への展示説明：修学旅行・課外見学者などの受け入れ
④系属小学生の社会科見学の展示説明
⑤学内外生涯教育への協力：エクステンションセンターほか受け入れ
⑥大隈重信演説談話集：早稲田大学編として岩波文庫から刊行。2016 ～ 2018年の３年間、全学部卒業生に対し配付。

4. 文化企画課

(1) 教育活動

①第19回おもしろ科学実験教室（軽井沢町・鴨川市）：理工学術院との共催
②早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業学生公演：美濃加茂市で学生の演劇公演を実施
③第７回　早稲田学生文化・芸術祭：学生部との共催
④早稲田文化芸術週間2016：大学箇所・教職員および学生登録団体の文化発信を支援
⑤講堂設備技能判定会・初心者説明会：照明設備（大隈記念講堂、小野記念講堂）
音響設備（大隈記念講堂、小野記念講堂）……詳細は59ページを参照
⑥文化推進学生アドバイザー：2014年３月発足。2016年12月に第４期目がスタート。学部１年～修士１年の学生12名が、ボランティアとして文化企画課主催のイベントの企画・立案を行っている。
⑦Museum Week：2015年度より実施。大学内の文化施設（演劇博物館、會津博物館、大隈記念室、125記念室）の学生による利用・活用の促進活動。

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

催し物　坪内博士記念演劇博物館

2016年度シェイクスピア祭演劇講座
「シェイクスピアのアナモルフォーズ―『ヴェニスの商人』を中心に」

日時　5月13日（金）　15：00〜16：30
会場　小野記念講堂
主催　演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点
講師　蒲池美鶴（立教大学教授）

シェイクスピア没後400年となる2016年、「シェイクスピア祭演劇講座」として立教大学教授の蒲池美鶴先生にご講演いただいた。講演では16世紀から17世紀にかけてイギリスで流行したアナモルフォーズ（角度を変えると全く別の図像が現れる歪像画法）の概念を応用しながら、『ヴェニスの商人』に登場するユダヤ人高利貸しシャイロックの台詞、特に「kind」という言葉について多角的に解釈していった。

●来場者数　72名

展覧会　坪内博士記念演劇博物館

特別展「あゝ新宿―スペクタクルとしての都市」展

会期　5月28日（土）〜8月7日（日）
会場　演劇博物館2階　企画展示室Ⅰ・Ⅱ
主催　演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点
後援　新宿区
協力　磯崎新アトリエ、新宿区立新宿歴史博物館、株式会社紀伊國屋書店、劇団唐組、劇団唐ゼミ
企画協力　宮沢章夫（劇作家・演出家・批評家・早稲田大学教授）、松井茂（詩人・情報科学芸術大学院大学准教授）、大塚聡（建築家・舞台美術）

新たに発見された劇団現代人劇場『想い出の日本一萬年』（作：清水邦夫、演出：蜷川幸雄、アートシアター新宿文化、1970年）の貴重な舞台映像をはじめ、写真やポスターなどさまざまな資料から新宿の文化史をたどり直すとともに、磯崎新による幻の新都庁案で提示されていた祝祭広場の思想を手掛かりに、祝祭都市新宿の未来像をも構想した展示。演劇博物館内部に工事現場風のアングラ空間が出現したことも話題を呼んだ。

●来場者数　21,180名*

＊来場者数は期間中の入館者数の合計

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

展覧会ギャラリートーク

特別展「あゝ新宿－スペクタクルとしての都市」展
ギャラリートーク①

日時 6月21日（火）　18：00～19：00
会場 演劇博物館２階　企画展示室
主催 演劇博物館、新宿から文化を発信する演劇博物館実行委員会
助成 平成28年度文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
出演 松井茂（詩人・情報科学芸術大学院大学准教授）、大塚聡（建築家・舞台美術）
司会 岡室美奈子（演劇博物館館長）

「あゝ新宿－スペクタクルとしての都市」展に企画段階から協力していただいた2人によるギャラリートーク。建築家で新宿梁山泊の舞台美術も担当されている大塚氏と、ワタリウム美術館での「磯崎新 12×5＝60」展で監修を務め、今回の展示では「磯崎新×祝祭都市」のパート構成にご協力いただいた松井氏によるトークは、それぞれの専門性を反映した独自の切り口を示すものとなり、単に展示を見て回るのとはまた違った楽しみ方を提供した。

●来場者数　27名

展覧会関連講演会

特別展「あゝ新宿－スペクタクルとしての都市」展　関連座談会
「文化の街・新宿の歴史と未来～街を支えるリーダーたち～」

日時 6月30日（木）　14：45～16：15
会場 国際会議場　井深大記念ホール
主催 演劇博物館、新宿から文化を発信する演劇博物館実行委員会
助成 平成28年度文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
登壇者 吉住健一（新宿区長）、高井昌史（紀伊國屋書店代表取締役会長兼社長）、染谷省三（中村屋取締役相談役）、髙野吉太郎（新宿高野代表取締役社長）、鎌田薫（早稲田大学総長）
司会 岡室美奈子（演劇博物館館長）

新宿高野、中村屋、紀伊國屋書店は新宿御三家と呼ばれ、単に新宿に店を構えるだけではなく、演劇や絵画、彫刻、食文化を通じて、文化の街・新宿の発展に貢献してきた。今回の座談会では吉住新宿区長と新宿御三家の経営者をお迎えし、鎌田総長とともに文化の街新宿の過去・現在・未来を語り合っていただいた。かつての新宿の姿を語る言葉に滲む熱気と新宿文化の発展のための提言が示すビジョンに会場は大きな盛り上がりを見せた。

●来場者数　620名
（サテライト中継の参加者を含む）

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

展覧会関連催し物

特別展「あゝ新宿―スペクタクルとしての都市」展　関連上映会＆トーク
「新宿 1968―69 ドキュメンタリー/ハプニング/ジャズ」

日時　7月8日(金)　17：30〜20：30
会場　大隈記念講堂大講堂
主催　演劇博物館、新宿から文化を発信する演劇博物館実行委員会
助成　平成28年度文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
登壇者　山下洋輔（ジャズピアニスト）、田原総一朗（ジャーナリスト）、五箇公貴（テレビ東京プロデューサー）、宮沢章夫（劇作家・演出家・批評家・早稲田大学教授）、松井茂（情報科学芸術大学院大学准教授）
司会　岡室美奈子（演劇博物館館長）

第１部では『木島則夫ハプニングショー』や『バリケードの中のジャズ〜ゲバ学生対猛烈ピアニスト〜』などの貴重な映像を上映。山下洋輔氏のピアノ演奏のサプライズで幕を開けた第２部では、田原総一朗氏が『木島則夫ハプニングショー』に介入していた事実も明らかとなり、メディアの介入が生み出す虚実ないまぜの祝祭空間・新宿の姿が、貴重なドキュメンタリー映像と当事者の証言により鮮明に浮かび上がるイベントとなった。

●来場者数　916名

展覧会ギャラリートーク

特別展「あゝ新宿―スペクタクルとしての都市」展
ギャラリートーク②

日時　7月19日(火)　18：30〜19：45
会場　演劇博物館２階　企画展示室
主催　演劇博物館、新宿から文化を発信する演劇博物館実行委員会
助成　平成28年度文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
出演　宮沢章夫（劇作家・演出家・批評家・早稲田大学教授）、丸山俊一（NHKプロデューサー）
司会　岡室美奈子（演劇博物館館長）

「サブカルチャーとしての新宿、ニッポンの都市」をテーマにNHK「ニッポン戦後サブカルチャー史」の宮沢章夫氏とNHKプロデューサーの丸山俊一氏をお迎えし、展示の見どころや企画の意図を解説していただいた。トークは演劇や建築、あるいは街といった切り口から新宿の文化が立体的に浮かび上がる内容で、60年代の西口広場から86年の磯崎新氏の新都庁案を経由して現在に至る新宿文化の流れをクリアに示した。

●来場者数　110名

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

催し物　坪内博士記念演劇博物館

第79回逍遙祭
「いま、逍遙作品を上演すること —花組芝居版『桐一葉』をめぐって—」

日時　6月3日（金）　14：00〜16：00
会場　大隈記念講堂小講堂
主催　演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点
お話　加納幸和（花組芝居座長）
聞き手　児玉竜一（演劇博物館副館長）

演劇博物館の創立者坪内逍遙博士の生誕日（5月22日）を記念して毎年開催されるイベントである。79回目となる今回は、第Ⅰ部では六代目中村歌右衛門が淀の方を演じた貴重な国立劇場での映像『桐一葉』（部分）をビデオ上映し、第Ⅱ部では花組芝居座長の加納幸和氏をお招きし、当館児玉竜一副館長を聞き手に対談「いま、逍遙作品を上演すること」を行った。対談では加納氏の朗読も行われたほか、2人の軽妙なやり取りに会場から笑いが起きる場面もあった。

●来場者数　74名

展覧会　坪内博士記念演劇博物館

「早稲田大学芸術功労者顕彰記念　中村吉右衛門展」

日時　6月7日（火）〜8月7日（日）
会場　演劇博物館1階　六世中村歌右衛門記念特別展示室
主催　演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点、文化推進部
協力　松竹株式会社、公益社団法人日本俳優協会、鍋島徳恭写真事務所

中村吉右衛門氏が早稲田大学芸術功労者の顕彰を受けられたことを記念して、その芸と歩みを紹介した。重厚な押し出しに深い内面性を湛え、口跡の豊かさによって、見る者を陶酔に誘う吉右衛門氏の舞台。陰翳の深い演技によって、古典歌舞伎作品の中から、極めてドラマティックな人物像を刻み出す現代歌舞伎の最高峰に立つ当たり役の数々を、舞台写真や舞台衣裳、初代からの伝来の書き抜き資料などによって紹介した。

●来場者数　19,223名*

展覧会関連講演会

「早稲田大学芸術功労者顕彰記念　中村吉右衛門展」関連企画
演劇講座「中村吉右衛門講演会—古典歌舞伎の芸と心」

日時　8月4日（木）　14：00〜15：50
会場　大隈記念講堂大講堂
主催　演劇博物館・演劇映像学連携拠点
講師　中村吉右衛門（歌舞伎俳優・芸術院会員）
聞き手　児玉竜一（演劇博物館副館長）

中村吉右衛門氏を講師に迎えて、芸談をうかがった。古典歌舞伎を支える第一人者として、家の芸の発掘や継承に、ますます活躍される近年の舞台を中心にお話しいただいた。「吉右衛門丈の魅力あふれるお話に時の経つのを忘れました。」、「もっともっと吉右衛門丈の芸談を聴きたかった。」といった意見が参加者から寄せられ、当館の目的通り「古典歌舞伎の第一人者」の人柄までもが伝わるトークイベントになった。

●来場者数　1,124名

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

催し物　坪内博士記念演劇博物館

多言語展示解説「enpaku多言語ツアー」

日時　①７月18日（月）　14：00〜16：00　②７月29日（金）　17：00〜18：30
③10月10日（月）　14：45〜16：00　④10月17日（月）　10：40〜12：10
⑤10月29日（土）　11：00〜12：30　⑥11月11日（金）　17：00〜18：30
⑦11月23日（水）　14：00〜16：00

会場　演劇博物館

主催　演劇博物館、新宿から文化を発信する演劇博物館実行委員会

助成　平成28年度文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

館内多言語化事業の一環として、展示の解説を行う館内ツアーに通訳が同行し、英語・中国語・韓国語の3か国語でツアーを実施した。日本文化について前提となる知識を持たない海外からの来館者や留学生にも分かりやすい解説と、気軽に質問できるツアー方式が好評を博した。館内設置の多言語対応解説タッチパネルとともに、グローバル化につながると期待される。

●来場者数　72名

展覧会　坪内博士記念演劇博物館

企画展「落語とメディア」

日時　2016年10月１日（土）〜2017年１月18日（水）

会場　演劇博物館２階　企画展示室

主催　演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点

協力　株式会社オフィスエムズ、キングレコード株式会社、株式会社講談社

歴史的に見ても先験的に高い親和性を保ってきた、落語とメディアの親密な関係性をたどりつつ、寄席から速記、レコード、ラジオ、テレビ、そしてインターネットに至るまで、落語を巡るメディア空間の変容が、落語の芸にいかなる影響を及ぼしてきたのか、その変遷の過程を明らかにするとともに、しばしば敷居が高いといわれる落語の魅力を、これまで落語に興味のなかった人々に向けても広く発信した。

●来場者数　21,279名*

展覧会関連催し物

企画展「落語とメディア」同時開催イベント
トーク「柳家喬太郎×『昭和元禄落語心中』」

日時　10月15日（土）　13：30〜15：50

会場　大隈記念講堂大講堂　　**主催**　演劇博物館

協力　キングレコード株式会社、株式会社講談社

出演　柳家喬太郎（落語家）、関智一（声優・俳優）、辻谷耕史（音響監督・声優・俳優）

司会　吉田尚記（ニッポン放送アナウンサー）

話題のアニメ『昭和元禄落語心中』のキャストとスタッフから、関智一氏と辻谷耕史氏をお迎えし、落語のメディアミックスについて現場の裏話を交えつつお話しいただくとともに、古典から新作まで縦横無尽の活躍を見せる柳家喬太郎師匠に、『落語心中』に所縁の一席「死神」をご口演いただいた。『落語心中』をきっかけに落語に興味を持ったが、生で聴くのは初めてという方も多く、これまで落語に興味のなかった人々に向けても、その魅力を発信する絶好の機会となった。　●来場者数　885名

＊来場者数は期間中の入館者数の合計

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

展覧会関連催し物

ミニ落語会「エンパク寄席」※ギャラリートーク付き

日時 ①10月11日（火）　17：00〜18：30　②11月15日（火）　15：00〜16：30
③12月13日（火）　17：00〜18：10
会場 演劇博物館２階　企画展示室
主催 演劇博物館、新宿から文化を発信する演劇博物館実行委員会
助成 平成28年度文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
出演 ①柳家緑太、金原亭馬久　②柳亭市童、金原亭馬久　③柳家緑太、柳亭市童
講師 ①〜③宮信明（演劇博物館助教）

柳家緑太氏、柳亭市童氏、金原亭馬久氏によるミニ落語会および企画担当者によるギャラリートークを開催した。落語のメディア史を概観し、展示品を解説するだけでなく、体験型展示「昔の寄席にタイムスリップ！」で設えた往時の寄席の雰囲気の中で、若手落語家の落語を生で聴いていただくことによって、児童・生徒・学生といった若年層並びに外国人を含めた地域住民の方々が、古典芸能に親しむ機会を創出した。

●来場者数　160名（①〜③の合計）

展覧会関連催し物

企画展「落語とメディア」同時開催イベント
落語公演「柳家小三治一門会」

日時 10月25日（火）　18：30〜20：30　**会場** 大隈記念講堂大講堂
主催 演劇博物館、新宿から文化を発信する演劇博物館実行委員会
助成 平成28年度文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
出演 柳家小三治、柳家ろべえ、柳家そのじ、柳家小はぜ

新宿区に生まれ育ち、いまなお同区内にお住まいの「高田馬場の師匠」こと柳家小三治師匠が、早稲田大学にいらっしゃるのは実に17年ぶり。世紀を跨いでの記念すべき落語会となった。現在、落語家として唯一の人間国宝である師の高座は、まさに自由闊達。一門の柳家ろべえ氏、柳家そのじ氏、柳家小はぜ氏も高座に彩りを加えてくれた。落語の魅力、素晴らしさとともに、その奥深さをも感じてもらえる会となった。

●来場者数　965名

展覧会関連催し物

企画展「落語とメディア」同時開催イベント
落語公演「日本演芸若手研精会 in 早稲田」

日時 11月30日（水）　18：00〜20：40　**会場** 大隈記念講堂小講堂
主催 演劇博物館、新宿から文化を発信する演劇博物館実行委員会
助成 平成28年度文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
出演 春風亭正太郎、春風亭昇々、桂宮治、入船亭小辰、柳家緑太、柳家小多け

若手落語家の育成を目的として、1979年の国立演芸場開場をきっかけに稲葉守治氏によって設立された「日本演芸若手研精会」のスピンオフ企画として、「日本演芸若手研精会 in 早稲田」を開催した。春風亭正太郎氏、春風亭昇々氏、桂宮治氏、入船亭小辰氏、柳家緑太氏、柳家小多け氏といった、今後の落語会を背負って立つであろう若手落語家の熱演に接することで、現在の落語あるいは落語家がいかに多様な魅力を発信しているのかを知る機会となった。

●来場者数　261名

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

展覧会関連催し物

落語公演「新春エンパク寄席　林家正雀独演会」

日時　2017年1月18日（水）　17：20〜19：30
会場　演劇博物館2階　企画展示室
主催　演劇博物館
出演　林家正雀、林家彦星
講師　宮信明（演劇博物館助教）

企画展「落語とメディア」の最終日に、「エンパク寄席」新春特別編として「林家正雀独演会」を開催した。稲荷町こと八代目林家正蔵（のちの彦六）のお家芸を継承し、芝居噺・怪談噺の第一人者として知られる林家正雀師匠に、「紙屑屋」「鼠穴」の二席をご口演いただいた。また、企画担当者との対談では、五代目古今亭志ん生から三代目古今亭志ん朝、そして八代目正蔵一門の逸話の数々をご披露くださり、展覧会のフィナーレを飾るに相応しいイベントとなった。

●来場者数　88名

展覧会　坪内博士記念演劇博物館

体験型展示「昔の寄席にタイムスリップ！」

日時　2016年10月1日（土）〜2017年1月18日（水）
会場　演劇博物館2階　企画展示室
主催　演劇博物館、新宿から文化を発信する演劇博物館実行委員会
助成　平成28年度文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

新たな機能を創造する美術館・歴史博物館に資する事業として実施した体験型展示「昔の寄席にタイムスリップ！」では、江戸から明治にかけて一町内にひとつやふたつはあったといわれる寄席が、庶民にいかに親しまれていたのかを示すとともに、町内の憩いの場、社交の場として機能していた古き良き時代の寄席を再現した。その空間を実際に体験してもらうことによって、若年層並びに外国人を含めた地域住民の方々の日本文化への関心を喚起した。

●来場者数　21,279名*

展覧会　坪内博士記念演劇博物館

シェイクスピア没後400年記念特別展
「沙翁復興 — 逍遙からNINAGAWAまで」
Shakespeare Renaissance - from Shoyo to NINAGAWA

日時　2016年10月14日（金）〜2017年1月29日（日）
会場　演劇博物館1階　特別展示室
主催　演劇博物館
協力　バーミンガム大学シェイクスピア・インスティテュート

今や世界中で上演されているシェイクスピア（沙翁）はいかにして日本で受け入れられてきたのか？本展では「日本への輸入（to Japan）」に苦心した江戸・明治期から「世界へ発信（from Japan）」するに至った現代まで、日本での受容史を振り返り、日本と海外の文化が融合することで生まれる新たな創造の可能性について考えた。なお2016年当館はシェイクスピア研究の世界的拠点であるバーミンガム大学と学術連携し、本展はそれを記念したものでもあった。

●来場者数　20,417名*

＊来場者数は期間中の入館者数の合計

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

撮影：澁谷征司

展覧会関連催し物

シェイクスピア没後400年記念特別展「沙翁復興 ― 逍遙からNINAGAWAまで」関連イベント
野村萬斎トークショー「狂言とシェイクスピアの出会い」

日時　10月18日（火）　18：30〜20：00
会場　大隈記念講堂大講堂
主催　演劇博物館
講師　野村萬斎（狂言師）
聞き手　児玉竜一（演劇博物館副館長）

萬斎氏はシェイクスピア作品を“古典を現代に生かす”という独自のスタンスで解釈し、演出を手掛けてこられた。『間違いの喜劇』を狂言に翻案した『まちがいの狂言』、5人の出演者のみで表現する大胆な再構成を施した『マクベス』など、日本独自の美意識が反映された演出は海外でも高く評価されている。伝統芸能継承者として現代に生きる萬斎氏は西洋の古典・シェイクスピア戯曲をどのように捉え、演出しているのか？古典と現代の融合が生み出す創造の可能性をお話しいただいた。

●来場者数　835名

展覧会ギャラリートーク

シェイクスピア没後400年記念特別展「沙翁復興 ― 逍遙からNINAGAWAまで」
ギャラリートーク①「日本のシェイクスピア」

日時　11月24日（木）　18：00〜18：50
会場　演劇博物館１階　特別展示室
主催　演劇博物館
講師　冬木ひろみ（文学学術院教授）

現在の日本では、さまざまな演出によるシェイクスピアの舞台が行われている。しかしながら、日本に初めてシェイクスピアが入ってきた頃、日本人は彼の劇のどの部分に面白さを感じたのか。このギャラリートークでは、日本のシェイクスピアのはじまりと考えられる明治期（主に坪内逍遙）から今日まで、日本人がシェイクスピアという西洋の演劇のどこにひかれ、なにと格闘してきたのかを、いくつかの翻訳と舞台の具体例を挙げ、再認識した。

●来場者数　20名

展覧会ギャラリートーク

シェイクスピア没後400年記念特別展「沙翁復興 ― 逍遙からNINAGAWAまで」
ギャラリートーク②「演劇博物館と『忘れられたシェイクスピア』」

日時　12月14日（水）　15：00〜15：50
会場　演劇博物館１階　西洋演劇室
主催　演劇博物館
講師　児玉竜一（演劇博物館副館長）

明治時代以来、シェイクスピアは、歌舞伎や文楽、宝塚、時代劇映画など、さまざまなスタイルを借りて上演されてきた。その中にはシェイクスピア受容史研究から忘れられてしまったものも少なくない。ギャラリートークでは「忘れられたシェイクスピア」について、新劇史、歌舞伎史の秘蔵資料紹介とともに振り返った。

●来場者数　46名

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

シンポジウム　坪内博士記念演劇博物館

日本音楽学会東日本支部　第41回定例研究会
シンポジウム「映像の音楽演出と「選曲」―映画とテレビ―」

日時 10月8日（土）　14：25～18：00
会場 東京藝術大学音楽学部　5号館109
主催 日本音楽学会東日本支部　**共催** 演劇映像学連携研究拠点
パネリスト 柴田康太郎（東京大学大学院）、白井史人（演劇博物館研究助手）、栗山和樹（国立音楽大学教授）、辻田昇司（選曲家）

映像と音楽の歴史の中でサイレントからトーキーへの転換はしばしば既成曲の「選曲」からオリジナル曲の「作曲」へといった観点から語られる傾向にあるが、既成曲の使用はトーキー以後もさまざまに試みられてきた。本シンポジウムでは改めてサイレント映画伴奏の研究者、現代の映画やテレビの作曲家、選曲家が集まり、サイレント映画からテレビまでの多様な映像にとって「選曲」が持つ可能性と限界を議論した。

●来場者数　48名

シンポジウム　坪内博士記念演劇博物館

日仏演劇国際シンポジウム
「越境する　翻訳・翻案・異文化交流」

日時 ①10月25日（火）　②10月26日（水）　③10月27日（木）
会場 国際会議場　第二会議室
主催 演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点
共催 角田柳作記念国際日本学研究所、総合人文科学研究センター国際日本学共同研究部門、スーパーグローバル大学創成支援事業「国際日本学拠点」
協力 ストラスブール大学、アルザス・欧州日本学研究所（CEEJA）
助成 笹川日仏財団
登壇者 ①竹本幹夫（文学学術院教授）、寺田詩麻（聖学院大学）、中島国彦（早稲田大学名誉教授）、サカエ・ムラカミ＝ジルー（ストラスブール大学名誉教授）
②水田佳穂（演劇博物館招聘研究員）、ヴィルジニー・フェルモー（ストラスブール大学共同研究者）、児玉竜一（演劇博物館副館長）、マリー・ビゼ＝リリッグ（ストラスブール大学准教授）、エミリア・クストーヴァ（ストラスブール大学准教授）、藤井慎太郎（文学学術院教授）
③石坂安希（演劇博物館招聘研究員）、奥香織（日本学術振興会特別研究員PD）、児玉竜一（演劇博物館副館長）、イリニ・ツァマドゥ＝ジャコベルジェ（ストラスブール大学教授）、カロル・エゲル（ストラスブール大学教授）

当国際シンポジウムは本学とストラスブール大学、アルザス・欧州日本学研究所との提携により、2005年度から定期的に開催され、今年度で6回目を数える。狭義の言語間の「翻訳」にとどまらず、演劇、音楽、建築、映画などのさまざまなメディアを事例としてさまざまな側面から、文化の「越境」のあり方を検討した。

●来場者数　90名

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

展覧会　坪内博士記念演劇博物館

公募研究「淡島千景資料の多角的研究ー宝塚・映画・五輪・野球」成果展示「淡島千景特集」

日時 2016年11月５日（土）～2017年４月19日（水）
会場 演劇博物館３階　展示室
主催 演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点

1924年に東京に生まれた淡島千景は、宝塚歌劇団で活躍した後、1950年に映画女優に転身して数々の名作に出演し、1970年代以後には演劇とテレビドラマで活躍して生涯現役を貫いた。2012年の逝去後、遺族の厚志により約3,000点の貴重な遺品が演劇博物館に寄贈された。本特集では演劇映像学連携研究拠点による公募研究の成果に基づき、淡島氏が所蔵していた台本、ポスター、記録映像や所持品など、初公開のものを含む一次資料を展示した。

展覧会関連講演会

上映・講演会「淡島千景と幕末の女性達」

日時 12月17日（土）　14：00～17：15
会場 東京国立近代美術館フィルムセンター小ホール
主催 演劇映像学連携研究拠点
講師 笠原章（元新国劇・劇団若獅子代表）
聞き手 羽鳥隆英（新潟大学人文学部助教）

この催しでは演劇博物館での展示「淡島千景特集」に関連し、映画・テレビ・演劇とメディアを超えて演じ続けた淡島千景の当たり役、寺田屋の女将お登勢を多角的に検討した。映画『螢火』の上映を行うとともに、晩年に劇団若獅子公演『螢火　お登勢と龍馬』で淡島と共演した笠原章氏を招き、共演時の思い出をうかがった。

●来場者数　40名

催し物　坪内博士記念演劇博物館

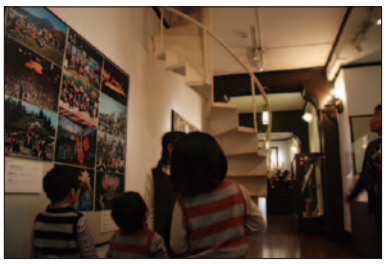
第３回　エンパク「青空市」

日時 11月23日（水）　11：00～16：00
会場 演劇博物館前
主催 演劇博物館

３回目となったエンパク「青空市」は、演劇博物館で日頃収集している古今東西の演劇・映像関連資料の中から、重複している資料を学生や一般の方に無料で配布する催し物である。和書をはじめとして、英語・フランス語・ドイツ語・中国語・韓国語などの外国語書籍、雑誌、パンフレット、ポスターなどを提供した。去年に続き多くの方々にご参加いただき、多様な演劇・映像資料に出会える機会をつくることができた。

●来場者数　88名

催し物　坪内博士記念演劇博物館



こどものためのエンパクツアー

日時　11月23日（水）　10：00〜12：30
会場　演劇博物館、６号館３階　レクチャールーム
主催　演劇博物館、特定非営利活動法人CLCA（子どもと生活文化協会）
講師　トーク「お芝居のおはなし」：児玉竜一（演劇博物館副館長）

小田原市で活動している特定非営利活動法人CLCAから提案を受け、子どもたちが演劇にふれる機会として、エンパクツアーを企画した。前半のトークでは副館長が演劇についてのトークを、続く館内見学ではガイドが同行して展示や演劇の歴史について解説した。小学生から高校生までの子どもたちはトーク中も活発に質問し、演劇博物館の展示や初めて足を運ぶ早稲田キャンパスに興味津々の様子だった。

●来場者数　88名

催し物　坪内博士記念演劇博物館

日本の伝統文化体験講座〈狂言〉

日時　①11月16日（水）　13：10〜15：10
②12月14日（水）　10：30〜11：20
③2017年１月19日（木）　11：00〜11：45
④2017年２月１日（水）　９：35〜11：35
会場　①東京都立江東特別支援学校
②新宿区立新宿養護学校
③東京都立光明特別支援学校そよ風分教室
④東京都立八王子特別支援学校
主催　演劇博物館、新宿から文化を発信する演劇博物館実行委員会
助成　平成28年度文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
講師　善竹十郎、善竹大二郎（狂言師）

障がいを持った子どもたちへの芸術鑑賞支援の一環として都内の特別支援学校に出張して日本の伝統芸能を鑑賞・体験するワークショップを行う。狂言ワークショップでは①レクチャー（狂言鑑賞のコツ）、②舞台鑑賞（「柿山伏」）、③体験（狂言の姿勢や節回し、喜怒哀楽の表現などを全員で実践）の３つを柱とし、難解と思われがちな古典芸能・狂言を受講者が皆、キラキラした目で鑑賞。また「動物のしぐさや鳴き声」を実践するコーナーでは、受講者から笑いが溢れ、活き活きと狂言を体験することができた。

●来場者数　306名（①〜④の合計）

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

催し物

日本の伝統文化体験講座〈常磐津〉

日時 12月1日(木)　13：40〜14：40
会場 東京都立光明特別支援学校
主催 演劇博物館、新宿から文化を発信する演劇博物館実行委員会
助成 平成28年度文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
講師 常磐津和英太夫、常磐津菊与志郎

障がいを持った子どもたちへの芸術鑑賞支援の一環として、都内の特別支援学校に出張して、日本の伝統芸能を鑑賞体験するワークショップを行う。常磐津ワークショップでは三味線・常磐津の演奏鑑賞のほか、雨うちわの演奏、三味線と一緒に合唱などの体験も行った。常磐津を聞くのは初めてという生徒が多かったが、全員楽しそうに参加していた。講師が着用している袴や三味線の素材など、子どもたちはさまざまなことに興味を持った様子だった。

●来場者数　112名

シンポジウム　　坪内博士記念演劇博物館

シンポジウム「無声期の時代劇映画と和洋合奏：ヒラノ・コレクションの時代劇伴奏曲集」

日時 2017年1月7日(土)　13：30〜17：00
会場 小野記念講堂
主催 演劇映像学連携研究拠点　　**協力** 牧由尚（画像・映像提供）
講師 柴田康太郎（東京大学大学院）、紙屋牧子（東京国立近代美術館フィルムセンター客員研究員）、白井史人（演劇博物館研究助手）、牧由尚（日本映画研究者）、土田牧子（共立女子大学）
出演 片岡一郎（弁士）、izumi（フルート）、川上統（チェロ）、丹原要（ピアノ）、古橋ゆき（ヴァイオリン）、宮澤やすみ（三味線）、湯浅ジョウイチ（ギター・指揮）

この催しは、2014年に演劇博物館に収蔵された楽譜資料「ヒラノ・コレクション」の調査を行う公募研究の成果報告会である。同資料から想定される主要編成の和洋合奏での同資料の演奏を初めて実現するとともに、牧氏提供の映画『血煙高田馬場』『一殺多生剣』の伴奏として複数の曲を比較し、同資料とこの合奏形態の特徴を捉え直した。

●来場者数　40名

講演会　　坪内博士記念演劇博物館

公開セミナー「無声映画伴奏の復元へ向けて――日本とアメリカの事例」

日時 2017年1月14日(土)　15：00〜17：00
会場 6号館3階　レクチャールーム　　**主催** 演劇映像学連携研究拠点
登壇者 ジェームズ・デーリング（ランドルフ・メーコン大学教授）、紙屋牧子（東京国立近代美術館フィルムセンター客員研究員）、白井史人（演劇博物館研究助手）

アメリカのランドルフ・メーコン大学にて無声映画伴奏の復元や日本映画の音・音楽の研究に従事するジェームズ・デーリング氏を招き、公開セミナーを行った。演劇映像学連携研究拠点による公募研究の成果の紹介に続き、デーリング氏による映画『アントニーとクレオパトラ』のアメリカ封切時の伴奏音楽を復元した経験について講演をいただいた。日米における事例を比較検討しながら、無声映画伴奏の復元を巡る課題や可能性を議論した。

●来場者数　16名

催し物

坪内博士記念演劇博物館

シェイクスピア没後400年記念連続イベント　フェス早稲田シェイクスピア
演劇公演　劇団地点「ロミオとジュリエット」

日時 ①2017年１月20日（金）　19：00〜20：20
②2017年１月21日（土）　19：00〜20：20

会場 大隈記念講堂大講堂　**主催** 合同会社地点
共催 早稲田大学　**助成** 芸術文化振興資金
出演 安部聡子、石田大、小河原康二、窪田史恵、河野早紀、小林洋平、田中祐気
演出 三浦基　**音楽** 空間現代

英・グローブ座からの依頼で制作された「コリオレイナス」に続く劇団「地点」のシェイクスピア劇第2弾。国内外から評価を集める地点が、本学出身で同じく国際的に評価されるバンド・空間現代とタッグを組んだことも話題を呼んだ。演出の三浦基氏はその後、読売演劇大賞で審査員特別賞を受賞するなど、その評価はますます高まっている。大隈記念講堂での最先端の現代演劇の上演は「演劇の早稲田」を改めて印象付けた。

●来場者数　①571名　②635名

展覧会

坪内博士記念演劇博物館

Who Dance?　振付のアクチュアリティ

日時 2017年２月２日（木）〜２月19日（日）
会場 横浜赤レンガ倉庫１号館２階　スペースA
主催 横浜赤レンガ倉庫１号館（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）、演劇博物館
協力 あうるすぽっと（豊島区立舞台芸術交流センター）、株式会社DHCシアター、彩の国さいたま芸術劇場、公益財団法人セゾン文化財団、フランス国立レンヌ・ブルターニュ振付センター

ダンスの歴史を振り返りつつ、「身体」「空間」「テクノロジー」という３つの観点から21世紀以降のコンテンポラリーダンスの実践に焦点を当て、私たちの生きる現代に特有の「コレオグラフィ／振付」とは何かを考えた。なお、本展示は演劇博物館にて開催した展示「Who Dance?　振付のアクチュアリティ」（2015年10月〜2016年１月）を、横浜ダンスコレクション2017に合わせ、再構成したものである。

●来場者数　9,945名

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

シンポジウム

坪内博士記念演劇博物館

脚本アーカイブズ・シンポジウム2017
「脚本アーカイブズ・デジタル活用の未来 ～デジタル脚本と映像を共に楽しむ方法とは～」

日時 2017年３月９日（木）　13：30～17：00　**会場** 小野記念講堂
主催 一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム
協力 文化庁、演劇博物館
出演 〈第１部〉語り手：池端俊策（脚本家）、聞き手：岡室美奈子（演劇博物館館長）〈第２部〉パネラー：今野勉（演出家・放送人の会会長）、福井健策（弁護士・日本大学藝術学部特任教授）、高野明彦（国立情報学研究所教授）、丹羽美之（東京大学大学院情報学環准教授）
司会 吉見俊哉（東京大学大学院情報学環教授）

第１部では、昨秋NHKで放映された「夏目漱石の妻」など「池端脚本」のドラマ映像を題材にして、脚本と実際の映像を比較しながら「脚本・演技・演出」の関係を解き明かした。第２部では、1962年の「おかあさん」をもとに、ドラマ映像に含まれる権利と法律の関係やその問題点が解説された。脚本で「・・・」と表現した部分がどう演技・演出されるのか。映像アーカイブが抱える問題点とは。新年度の企画展「テレビドラマ展」につながる高度で濃い内容のイベントであった。　●来場者数　150名

展覧会

坪内博士記念演劇博物館

2017年　新収蔵品展

日時 2017年３月１日（水）～４月16日（日）
会場 演劇博物館１階　特別展示室
主催 演劇博物館

演劇博物館が所蔵する古今東西の演劇・映像関連のコレクションから、近年新たに収蔵された資料を紹介した。展示では、日本舞踊史に輝かしい足跡を残した武原はんの舞台衣裳のほか、舞台、映画、テレビなど幅広いジャンルで活躍した俳優大滝秀治の愛用品や舞台道具などもあわせてお披露目した。また、昭和期に数多くの優秀なダンサーやコメディアンを輩出した日劇ミュージックホールのパンフレットや台本なども展示した。

●来場者数　7,374名*

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

展覧会　　會津八一記念博物館

人のかたち

日時　3月1日(火)～4月23日(土)
会場　會津八一記念博物館1階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館

「人の表現」をキーワードに、重要文化財の埴輪女子像、矢部友衛の裸婦やエジプトのレリーフに表される人体、人物文で飾られた陶磁器、寺畑助之丞の母子像（彫刻）など、さまざまな分野の作品を展示した。

●来場者数　2,635名

展覧会ギャラリートーク

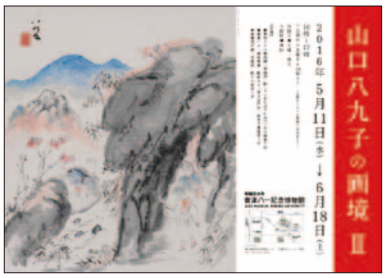
ギャラリートーク

日時　①7月30日(土)　14：30～15：00　②10月15日(土)　13：00～13：30
③2017年1月14日(土)　13：00～13：30
会場　會津八一記念博物館1階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館
講師　下野玲子（會津八一記念博物館主任研究員）

富岡重憲コレクションの概要について、および当該展覧会の展示内容と見どころを解説した。

●来場者数　31名

展覧会　　會津八一記念博物館



山口八九子の画境Ⅲ

日時　5月11日(水)～6月18日(土)
会場　會津八一記念博物館1階　企画展示室
主催　會津八一記念博物館

今回で4度目となる山口八九子（1890～1933年）の展覧会。八九子は京都の画家で南画、俳画をよくし、俳誌『ホトトギス』の表紙絵や挿絵を描いたことで知られている。本展覧会では、これまで未公開であった作品を展示した。また、代表作「牡丹図屏風」を11年ぶりに展示。八九子作品をまとまって所蔵するのは京都国立近代美術館、京都市美術館、和歌山県立近代美術館で、関東では当館のみが八九子の優品コレクションにふれることができる。

●来場者数　2,831名

＊来場者数は期間中の入館者数の合計

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

展覧会　　會津八一記念博物館

屏風絵　—近世から近代—

日時　5月11日（水）～6月25日（土）
会場　會津八一記念博物館１階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館

江戸時代前期の作とされる樹木図屏風、中国の故事を描いた許由巣父図屏風、狩野探雪（1655～1714年）の藤図屏風、明治期の田能村直入（1814～1907年）の山水図屏風、といった屏風装の作品を中心に、室町～江戸時代の絵巻物断簡などを併せて展示した。

●来場者数　2,843名

展覧会　　會津八一記念博物館

早稲田のなかの韓国美術

日時　5月10日（火）～5月28日（土）
主催　駐日韓国大使館韓国文化院、會津八一記念博物館
協力　李成市（文化推進担当理事）、川尻秋生（會津八一記念博物館副館長）、片岡直樹（新潟産業大学経済学部教授）、大橋一章（早稲田大学名誉教授）

この展覧会は、韓国文化院の開院37周年を記念し、會津八一記念博物館と共同主催で、同博物館所蔵の韓国美術品を紹介するために企画された。會津八一記念博物館は早稲田大学名誉教授・文学博士であった會津八一をはじめ富岡重憲、服部和彦らの20,000点を超える数多いコレクションの中、韓国関連資料を900点以上所蔵している。本展では、所蔵資料より陶磁器・茶碗・仏像・拓本などの美術品を厳選し、約50点を紹介した。

●来場者数　1,040名

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

展覧会　　會津八一記念博物館

ル・コルビュジエ　ロンシャンの丘との対話
ル・コルビュジエの現場での息吹・吉阪隆正が学んだもの

日時　6月29日(水)～8月7日(日)
会場　會津八一記念博物館1階　企画展示室
主催　會津八一記念博物館
共催　理工学術院創造理工学部建築学科、理工学研究所
後援　Fondation Le Corbusier、在日スイス大使館、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、日本建築学会
協賛　株式会社大林組、鹿島建設株式会社、清水建設株式会社、大成建設株式会社、株式会社竹中工務店

モダニズムの巨匠、建築家ル・コルビュジエは、晩年に名作〈ロンシャンの礼拝堂とその建築群〉を計画した。早稲田大学ル・コルビュジエ実測調査研究会は2013年度よりその継続的調査を行なっている。本展覧会では調査により制作した実測図を公開するとともに、《ロンシャンの礼拝堂》に残されている、現場でル・コルビュジエが実際に使用した貴重な青写真を展示した。

●来場者数　6,184名

展覧会関連シンポジウム

シンポジウムⅠ「ロンシャンの丘の実測調査＋ル・コルビュジエと吉阪隆正」
シンポジウムⅡ「ロンシャンの丘との対話」

日時　①7月2日(土)　14：30～17：00　　②7月16日(土)　14：30～17：30
会場　小野記念講堂、大隈記念講堂小講堂
主催　理工学術院創造理工学部建築学科、理工学研究所
後援　Fondation Le Corbusier、在日スイス大使館、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、日本建築学会
協賛　株式会社大林組、鹿島建設株式会社、清水建設株式会社、大成建設株式会社、株式会社竹中工務店
登壇者　①シンポジウムⅠ
〈パネリスト〉白石哲雄（理工学研究所招聘研究員）、塚原史（會津八一記念博物館館長）、古谷誠章（ル・コルビュジエ実測調査研究会代表・理工学術院教授）、後藤春彦（理工学術院教授）
〈モデレーター〉藤井由理（理工学術院准教授）
②シンポジウムⅡ
〈基調講演〉ジャン-フランソワ・マテ氏（ノートル・ダム・デュ・オーの慈善事業協会副プレジデント）
〈パネリスト〉白石哲雄、松隈洋（京都工芸繊維大学教授）、鈴木恂（早稲田大学名誉教授）
〈モデレーター〉古谷誠章
〈司会〉藤井由理

「ル・コルビュジエ　ロンシャンの丘との対話」展に関連したシンポジウムを開催。

●来場者数　①74名　②202名

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

展覧会　會津八一記念博物館

中国陶磁の流れ

日時　7月6日(水)～9月23日(金)
会場　會津八一記念博物館1階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館

新石器時代・仰韶文化（前2,500年頃）の彩陶渦巻文双耳壺から清時代の茶葉末大壺まで、中国陶磁史の大筋の流れを富岡コレクションの作品で綴る展覧会。このコレクションの中国陶磁は明清時代の大型の作品が多く、中でも美しい単色釉の壺や瓶が見どころである。また、明清時代の青磁、五彩、青花などさまざまな技法の作品を見比べられるような展示とした。

●来場者数　4,464名

展覧会　會津八一記念博物館

近世の禅書画　—白隠とその会下—

日時　10月4日(火)～11月19日(土)
会場　會津八一記念博物館1階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館

富岡コレクションのほぼ3分の1は禅僧の書画で占められている。この中から、庶民にも禅画を用いて教えを広め、日本臨済宗中興の祖と仰がれる白隠慧鶴（1685～1768年）と、その法系に列なる禅師たちの作品を紹介した。遂翁元盧、東嶺圓慈をはじめ、霊源慧桃、峨山慈棹といった白隠の弟子たち、さらにその次世代以降の春叢紹珠、卓洲胡僊、弘巌玄猊、蘇山玄喬らによる、達磨図や寒山拾得図などさまざまな主題の絵画、墨蹟を展示した。

●来場者数　3,220名

展覧会　會津八一記念博物館

殿塚・姫塚古墳発掘60周年記念
甦る九十九里の埴輪群像　—3D考古学の挑戦—

日時　10月14日(金)～11月19日(土)
会場　會津八一記念博物館1階　企画展示室
主催　會津八一記念博物館、芝山町立芝山古墳・はにわ博物館、芝山はにわ博物館（芝山仁王尊観音教寺）
協力　文学部考古学研究室、株式会社ラング

殿塚古墳と姫塚古墳（国指定史跡）は、千葉県横芝光町に所在する古墳時代後期の前方後円墳である。1956年に早稲田大学教育学部の故・滝口宏名誉教授の主導のもとで学術調査が実施され、当域の大型前方後円墳の構成や変遷を考える上で貴重な成果が得られた。両古墳の発掘60周年を記念する本展では、当時の発掘を振り返り、九十九里地域の人物埴輪を展示するとともに、本学文学部考古学研究室の協力のもと最先端の三次元を活用した埴輪研究の現在を紹介した。　●来場者数　4,146名

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

シンポジウム

3D考古学の挑戦
―考古遺物・遺構の三次元計測における研究の現状と課題―

日時 ①10月16日（日）　10：00～17：00　　②10月17日（月）　10：00～17：00

会場 大隈記念講堂小講堂

主催 総合人文科学研究センター

共催 會津八一記念博物館、文学部考古学コース、高等研究所、早稲田大学考古学会、（以下、総合研究機構プロジェクト研究所）東アジア都城・シルクロード考古学研究所、比較考古学研究所、先史考古学研究所、文化財総合調査研究所、エジプト学研究所

登壇者 野口淳（NPO法人南アジア文化遺産センター・東京大学総合研究博物館）、横山真・千葉史（株式会社ラング）、水野敏典（奈良県立橿原考古学研究所）、城倉正祥（早稲田大学文学学術院）、山口欧志（奈良文化財研究所）、河野一隆（九州国立博物館）、寺村裕史（国立民族学博物館）、平原信崇（會津八一記念博物館）、大網信良（東京都埋蔵文化財センター）、佐野勝宏（東京大学総合研究博物館）、田畑幸嗣（文学学術院）、寺崎秀一郎（文学学術院）、馬場匡浩（高等研究所）、近藤二郎（文学学術院）、河合望（金沢大学新学術創成研究機構）、渡邊玲（文学研究科考古学コース修士課程）、佐藤悠登（文学研究科考古学コース修士課程）、青木弘（埼玉県埋蔵文化財調査事業団・早稲田大学東アジア都城・シルクロード考古学研究所）、ナワビ矢麻（文学研究科考古学コース博士後期課程）、小林和樹（文学研究科考古学コース修士課程）、石井友菜（文学研究科考古学コース修士課程）、根本佑（文学研究科考古学コース修士課程）、長崎潤一（文学学術院）

近年、考古学の世界において3D技術を駆使した研究例が急速に普及している。誰もが三次元に「挑戦」できる時代となった一方で、新しい技術を導入するにあたって、確固たる分析・方法論を模索している時代でもある。本シンポジウムでは、2日間の日程で研究発表と総合討議を行った。さまざまな分野・時代・地域での研究発表をとおし最新の成果を共有するとともに、総合討議においては考古学分野における三次元計測の可能性と研究の展開について議論した。

●来場者数　①120名　②91名

展覧会　　會津八一記念博物館

安藤更生コレクション受贈記念

會津八一と安藤更生　―學藝の継承―

日時 2016年11月28日（月）～2017年１月21日（土）

会場 會津八一記念博物館１階　企画展示室

主催 會津八一記念博物館

安藤更生（1900～1970年）は會津八一の高弟として知られ、會津の後を継ぎ、早稲田大学にて東洋美術史を講じた人物である。近年、ご親族のご厚意により氏の所蔵品が当館に寄贈された。本展覧会では、安藤更生コレクションに含まれる書簡資料や美術品、書作品などから、安藤が會津の學藝をどのように継承したのか追った。

●来場者数　2,343名

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

展覧会　　會津八一記念博物館

富岡コレクションの近代絵画

日時　2016年12月１日(木)～2017年１月31日(火)
会場　會津八一記念博物館１階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館

矢部友衛の裸婦（1924年作）、近年寄贈された矢部の戦後の代表作・平和署名（1951年作）、満谷国四郎のバルコニー（1930年作）などの油彩画のほか、富岡鉄斎の七福神之図、橋本雅邦の松林高士図、下村観山の高士図、橋本関雪の鶴図など、明治期から昭和にかけての日本画作品を展示。会期が年末年始にあたるため、日本画は正月にふさわしい主題の作品を含めた。

●来場者数　1,632名

展覧会　　會津八一記念博物館

茶の道具

日時　2017年３月１日(水)～４月28日(金)
会場　會津八一記念博物館１階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館

富岡氏は「茶を喫するためには茶筅と茶碗があればよい」と言い、茶碗を計50碗余集めている。この茶碗の中から、江戸時代前期の茶人・久田宗全（1647～1707年）や楽家六代の左入（1683～1739年）の作を含む和物茶碗、禾目天目などの中国の唐物茶碗、三島や井戸と呼ばれる高麗茶碗、合わせて20点ほど選び、それに茶杓、茶入、釜、水指、竹や古銅の花生、香炉と香合、床を飾る軸物など、さまざまな道具を添えて展示した。

●来場者数　3,354名

展覧会　　大学史資料センター

「早稲田の通信講義録とその時代」

日時　３月22日(火)～４月23日(土)
会場　會津八一記念博物館１階　企画展示室
主催　大学史資料センター

早稲田大学の前身である東京専門学校が通信講義録の発行を始めてから130年目にあたり企画した。ほかの多くの通信講義録事業が短命に終わる中、早稲田の通信講義録は実に70年もの長期にわたって発行を続け、1956年に募集を停止するまで200万人を超える人々に購読された。通信講義録は、まさにキャンパスの外に広がった“もうひとつの早稲田”であり、逆境の中独学に励んだ講義録の受講生たちは、在校生以上に「在野の精神」を体現した存在だったといっても過言ではないであろう。ここでは、その“もうひとつの早稲田”の営みを展示した。

●来場者数　2,864名

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

講演会　　大学史資料センター

「大学アイデンティティーの確認とアーカイブズの充実、そして沿革史の編纂」

日時　6月8日（水）　18：00～19：30
会場　大隈会館２階　N201・202会議室
主催　大学史資料センター
講師　寺崎昌男（東京大学・立教大学・桜美林大学名誉教授）

全国の各大学が自校史の編纂と教育に積極的に取り組んでおり、大学の自己点検とともに、広報戦略の一翼を担う役割となりつつある。大学史資料センターでは、自校史編纂の現状を確認し、将来への展望を見いだすため、2015年度より大学史セミナーを開催している。今回は寺崎昌男氏を講師に招き、大学におけるアーカイブズ、自校史編纂が持つ意味とは何かをテーマに講演を行った。

●来場者数　65名

展覧会　　大学史資料センター

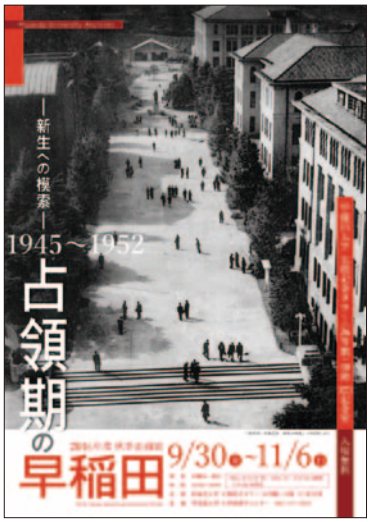
「資料が映す早稲田の今昔」

日時　6月17日（金）～8月7日（日）
会場　26号館（大隈記念タワー）10階　125記念室
主催　大学史資料センター

大学史資料センターでは、毎年、前年度に寄贈された資料を一堂に集めた「新収資料展」を開催している。本資料展では、大正期の卒業アルバムや学生が郷里に宛てた手紙、アジア・太平洋戦争で戦死した校友の遺品、体育各部関係資料（ソフトボール部、アーチェリー部）、大隈重信・小野梓関係資料など、寄贈いただいた数多くの貴重な資料を展示した。

●来場者数　1,261名

展覧会　　大学史資料センター



「占領期の早稲田1945～1952―新生への模索―」

日時　9月30日（金）～11月6日（日）
会場　26号館（大隈記念タワー）10階　125記念室
主催　大学史資料センター

本展示では、戦災にみまわれたキャンパスの再建、理念や組織の再編、戦後直後の学生生活、スポーツ・文化活動の再開といった事象に焦点を当てながら、戦後、早稲田大学が再出発する姿を活写した。

●来場者数　1,109名

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

講演会　大学史資料センター

「私立大学に於ける情報公開と文書管理」

日時　2017年1月27日(金)　18：00～19：30
会場　大隈会館3階　N301・303会議室
主催　大学史資料センター
講師　浅古弘（法学学術院教授）

大学史セミナーの3回目として、法学学術院教授の浅古弘氏をお迎えして講演を行った。私立大学における情報公開と文書管理をテーマとし、本学と各大学との比較なども交えながら、その現状と課題についてお話をいただいた。　●来場者数　39名

催し物　文化企画課

第7回　早稲田狂言の夕べ

日時　4月19日(火)　17：30～19：00
会場　大隈記念講堂大講堂
主催　文化推進部、総長室
協力　早稲田大学校友会
協賛　リーガロイヤルホテル東京

2010年に早稲田大学校友会設立125周年を記念して開催が始まり、2016年度で7回目の開催である。学内の学生・教職員をはじめ、招待校友やサポーターズ倶楽部の会員を対象としている。早稲田大学芸術功労者であり、人間国宝である野村万作氏、推薦校友の野村萬斎氏らが出演。本年度も校友である能楽師・清水寛二氏、西村高夫氏による観世流の仕舞が加わり、豪華な演目で行われた。　●来場者数　806名

展覧会　文化企画課

Meet the Smiles 3

日時　4月29日(金)～5月19日(木)
会場　ワセダギャラリー、27号館1階ショーウィンドウ、ICCラウンジ
主催　文化推進部文化企画課、国際コミュニティセンター

本学専任職員・岡崎直人氏（理工センター教学支援課）が、シリア、ナミビア、ツバル、コロンビア、キューバなど51か国・地域で撮影した写真を展示した。グローバル化が進み海外旅行や留学が以前よりも一般的となってきた昨今でも、日本から縁遠い国は数多くある。岡崎氏は国籍や人種を超えた世界の多様性をテーマに、実際に現地に赴きその地に生きる人々や子どもたちの笑顔を撮影した。来場者の方々からも「元気をもらった」という声が多く聞かれた。

●来場者数　370名

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

講演会

文化企画課

伊藤比呂美氏ワークショップ「日本の古典を現代語に訳してみる」

日時　5月13日（金）　14：00～17：00
会場　戸山キャンパス33号館３階　第１会議室
主催　文化推進部文化企画課、文学学術院文芸・ジャーナリズム論系
講師　伊藤比呂美（詩人・作家・坪内逍遙大賞受賞者）

第５回早稲田大学坪内逍遙大賞を受賞した、詩人・作家の伊藤比呂美氏によるワークショップを開催。本学の学生たちが、伊藤氏とともに日本文学古典の新訳に挑戦した。伊藤氏が影響を受けた翻訳作品についての講演を受けた後、文学学術院文芸ジャーナリズム論系・松永美穂研究室の学生が「日本霊異記」の現代語訳を披露。伊藤氏から学生それぞれにコメントをいただき、来場者の方々にも好評のイベントとなった。

●来場者数　116名

催し物

文化企画課

Museum Week 2016

日時　６月13日（月）～６月24日（金）
会場　演劇博物館、會津八一記念博物館ほか
主催　文化推進部

文化推進部各施設が収蔵する文化・情報資源を利用・活用する意義を体感してもらうため、2015年度よりスタートした企画。本年度で２回目。クイズに答えながらスタンプを集めているうちに多くの「知らなかった」に出会える「Museum Stamp Rally」、各博物館の館内を案内・解説する「Museum Tour」、博物館前で学生がパフォーマンスを披露する「Museum LIVE」、藪野健（画家・本学栄誉フェロー・日本藝術院会員）氏とキャンパス内の美術品を鑑賞しながら巡る「キャンパスもミュージアムツアー」の４企画を実施。

●来場者数　1,889名

シンポジウム

文化企画課

日韓半跏思惟像展示記念　国際シンポジウム「古代日韓の仏教文化」

日時　６月24日（金）13：30～17：30
会場　国際会議場　井深大記念ホール
主催　日韓半跏思惟像展示実行委員会、東京国立博物館、NHK、早稲田大学
登壇者　藁谷友紀（開会の挨拶・早稲田大学学長代理）、姜友邦（基調講演・韓国梨花女子大学名誉教授）、大橋一章（基調講演・早稲田大学名誉教授）、鈴木靖民（報告・國學院大学名誉教授・横浜市歴史博物館館長）、林南寿（報告・韓国嶺南大学教授）、大西修也（報告・九州大学名誉教授）、稲木吉一（報告・女子美術大学教授）、李成市（司会・文化推進担当理事）

当シンポジウムは、東京国立博物館特別展「日韓国交正常化50周年記念ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像」の開催を記念して実施された。同展示開催実現には、鎌田薫総長、藁谷友紀学長代理など大学関係者が数多く関わった。シンポジウムの目的は、古代日韓交流史を踏まえることにより、日韓に伝存する半跏思惟像の思想と造形美を明らかにすることであり、日韓の研究者により、三国時代、６・７世紀を中心とした日韓仏教文化における最新の学術成果が発表された。

●来場者数　390名

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

催し物

文化企画課

多和田葉子・高瀬アキ　パフォーマンス＆ワークショップ

日時 パフォーマンス「北斎さいさい」11月14日（月）　18：30〜20：30
ワークショップ「言葉と音楽　Vol. 7」11月15日（火）　16：30〜18：30

会場 小野記念講堂

主催 文化推進部、文学学術院文芸・ジャーナリズム論系

出演 多和田葉子（作家）、高瀬アキ（ジャズピアニスト）

ベルリン在住の作家・多和田葉子氏のテキスト朗読と、ジャズピアニスト・高瀬アキ氏の即興ピアノによる、言葉と音楽のコラボレーションの可能性を探るパフォーマンス・ワークショップ。今回で７年連続７回目である。１日目は多和田氏・高瀬氏による「葛飾北斎」をモチーフにしたパフォーマンス。２日目は事前選抜した学生たちが朗読を発表し、多和田氏の友人である島田氏によるドラム演奏とのリズムの妙をさまざまに試すワークショップを実施した。

●来場者数　170名

展覧会

文化企画課

渡部大語のごちゃまぜごはん的書道展

日時 11月16日（水）〜23日（水）

会場 26号館（大隈記念タワー）10階　125記念室

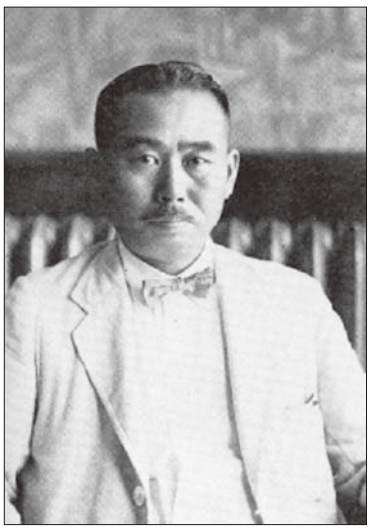
主催 書道研究途上社

協力 文化推進部文化企画課

30年以上にわたり、文字で早稲田大学を支えてきた早稲田大学嘱託書家・渡部大語氏。2016年11月末の退職を記念して、書道展を開催した。学内で開催されるイベントなどの手書きの看板、卒業時に授与される学位記、後世に永く遺る石碑など、本学には渡部大語氏の作品が溢れている。「早稲田の文化」といっても過言ではない渡部氏の筆文字を本学で飾る、最後にふさわしい展示となった。

●来場者数　644名

講演会　文化企画課


「石橋湛山写真譜」（東洋経済新報社刊）より

第16回「石橋湛山記念　早稲田ジャーナリズム大賞」記念講演会
“自由思想者”石橋湛山の生涯とその思想

日時　12月7日（水）　16：30〜17：30
会場　大隈会館2階　N201・202会議室
主催　文化推進部、広報課
講師　山口正（石橋湛山記念財団評議員）

1956年12月に石橋湛山が早稲田大学出身者として初めて内閣総理大臣に就任し、ちょうど60年を迎えるのを機に、石橋湛山の生涯と思想を改めて学ぶための講演会。広く社会文化と公共の利益に貢献したジャーナリスト個人の活動を発掘し、顕彰することにより、社会的使命・責任を自覚した言論人の育成と、自由かつ開かれた言論環境の形成への寄与を目的とした「石橋湛山記念　早稲田ジャーナリズム大賞」の授賞式に合わせて開催した。

●来場者数　60名

催し物　文化企画課

早稲田大学学生によるリーディング公演
ヴェニスの商人

日時　12月14日（水）　15：00〜16：30
　　12月15日（木）　13：00〜14：30、16：00〜17：30
会場　小野記念講堂
主催　文化推進部文化企画課、総合人文科学研究センター
共催　エクステンションセンター
協力　文学座
演出　西川信廣（文学座）

シェイクスピア没後400年イベントとして、早稲田大学の学生よる『ヴェニスの商人』を上演。テキストを持ちながら演じる「リーディング」形式で行い、テキストも早稲田大学文学部の創設者であり、シェイクスピアの全訳を始めて成し遂げた坪内逍遙の訳を使用した。本イベント発起人の文学学術院・冬木ひろみ教授が演劇経験の有無を問わず出演者を公募。配役を決定するためのオーディションワークショップ、全11回の稽古を経て本番を迎えた。

●来場者数　280名

文化事業
2016年度　展覧会・催し物

催し物　文化企画課

世界ハンセン病デー特別企画
～明日に架ける橋～朗読劇あん

日時　2017年1月29日（日）　15：00～17：30
会場　大隈記念講堂
主催　オンザフィールド、文化推進部
出演　中井貴惠（朗読）、ドリアン助川（朗読）、ピクルス田村（ギター）

世界ハンセン病デーに合わせ、ハンセン病元患者の人生をテーマにしたドリアン助川氏原作の小説「あん」を朗読劇として上演。上演前には、中国各地のハンセン病元患者の住む村でボランティア活動を行っている本学学生サークル「橋 ―Qiao（チャオ）」のメンバーとドリアン助川氏によるシンポジウムを実施した。さらに大隈記念講堂地下ロビーでは日本財団フォトグラファー、富永夏子氏の写真展「ハンセン病を考えることは、人間を考えること。」も開催。

●来場者数　406名

展覧会　文化企画課

早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業
企画展「モノを蒐めるまなざし―早稲田大学會津八一記念博物館蔵のコレクションとともに」

日時　2017年2月8日（水）～3月7日（火）
※美濃加茂市会場の会期は、2016年12月10日（土）～2017年1月29日（日）
会場　26号館（大隈記念タワー）10階　125記念室
主催　文化推進部、美濃加茂市民ミュージアム

早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業の一環として開催した企画展。早稲田大学および美濃加茂市で活動した「蒐集者」たちの姿を紹介する。東洋美術史研究や教育のため、約4,000点におよぶ実物を蒐集した會津八一をはじめとする本学の研究者たち、また美濃加茂市をフィールドとして地道な調査と記録の蓄積、資料の蒐集を続けた研究者たちの成果を通じて、「蒐集者」の生き様や彼らが見つめた社会・文化的背景にも思いを馳せる機会とした。

●来場者数　358名

展覧会　文化企画課

パプアニューギニアとの出会い
～早稲田大学収蔵コレクション～

日時　2017年3月22日（水）～4月25日（火）
会場　26号館（大隈記念タワー）10階　125記念室
主催　文化推進部文化企画課
協力　文学部考古学研究室、會津八一記念博物館、（有）PNGジャパン

2010年に埼玉県鶴ヶ島市より本学へと寄贈された、「オセアニア民族造形美術品」に関する展覧会。この資料群は新潟県石打村（現南魚沼市）出身の故・今泉隆平氏が収集したものである。1,000点以上にもおよぶ国内有数の規模を誇る所蔵品の中から貴重な資料を展示するほか、本学考古学研究室が2002年より継続して行っているパプアニューギニア現地調査についても紹介した。

●来場者数　1,303名

文化事業

第7回　早稲田学生文化・芸術祭

会場・日時　大隈記念講堂：6月11日(土)～14日(火)、18日(土)、19日(日)
小野記念講堂：6月6日(月)
早稲田小劇場どらま館：6月18日(土)、19日(日)
ワセダギャラリー：5月31日(火)～6月2日(木)、6月5日(日)～12日(日)

早稲田学生文化・芸術祭は、「学生団体の発表機会を増やし、早稲田の学生文化・芸術を発信・創造すること」を目的に、2010年より実施されている。文化推進部・学生部のサポートのもと、公認サークルの学生が主体となって公演を行う。「春の早稲田祭」を目指し、学生文化を継承するべく行っているイベントである。

第７回にあたる2016年度は26団体が参加し、大隈記念講堂・小野記念講堂・早稲田小劇場どらま館・ワセダギャラリーの４会場でさまざまな分野のパフォーマンスや展示を実施した。来場者は約5,500名にもおよび、充実したイベントとなった。

大隈記念講堂

形態	日程	公演時間	出演団体
オムニバス公演	6月11日(土)	11：00～11：30	ハイソサエティ・オーケストラ
		12：00～13：00	早稲田大学ニューオルリンズジャズクラブ
		14：00～15：00	エレクトーンサークルAUGMENT
		15：30～16：00	オルケスタ・デ・タンゴ・ワセダ
		16：20～17：20	早稲田大学よさこいチーム東京花火×魁響
		17：40～18：10	早稲田大学ジャズダンスサークルOasis
		18：20～18：50	早稲田大学ジャグリングサークル～infinity～
		19：00～19：30	早稲田大学チアダンスチームMYNX
	6月12日(日)	11：00～12：00	下駄っぱーず×TAP-LOVERS
		13：00～14：00	津軽三味線愛好会三津巴×WASEDA BALLERS×竹友会
		14：20～14：50	Waseda Collection（わせプロ）
		15：00～15：20	千葉学生稲門会×単位ブレイカーズ
		15：30～16：00	早稲田ベリーダンスサークルSARAHbelly
		16：10～16：40	Waseda Salsa Party（わせサル）
		16：50～17：30	ハワイ民族舞踊研究会（わせフラ）
		17：40～18：10	日本舞踊研究会
		18：20～18：35	SHOCKERS
単独公演	6月13日(月)	18：30～20：00	Waseda International Festival（W.I.F）
	6月14日(火)	18：30～20：00	お笑い工房LUDO
	6月18日(土)	18：00～20：15	Choco Crunch × Street Corner Symphony
	6月19日(日)	14：00～16：00	早稲田大学交響楽団（ワセオケ）

小野記念講堂・早稲田小劇場どらま館・ワセダギャラリー

会場	日程	時間	公演名・主催団体など
小野記念講堂	6月6日(月)	18：30～20：00	早稲田小劇場どらま館　開館一周年記念シンポジウム 宮沢章夫×平田オリザ×松井周
早稲田小劇場どらま館	6月18日(土)	14：00～18：00	怪獣同盟（映画上映会）
	6月19日(日)	第１回　13：00～13：35 第２回　17：00～17：35	怪獣同盟（早稲田戦士ヒーローショー）
ワセダギャラリー	5月31日(火)～6月2日(木)	10：00～18：00	絵画会
	6月5日(日)～6月10日(金)	10：00～18：00 ※最終日のみ～13：00	陶芸部稲穂窯
	6月11日(土)～6月12日(日)	10：00～18：00	生花研究会

文化事業
早稲田文化芸術週間 2016

期間 10月10日（月・祝）～10月21日（金）

会場 大隈記念講堂、小野記念講堂、国際会議場ほか

早稲田文化芸術週間は、早稲田大学や学内の箇所が主催する文化普及活動・社会貢献・地域振興活動を、「早稲田文化」をとおして社会に発信することを目的に2010年度より開始した。2016年度は早稲田キャンパスにとどまらず、戸山キャンパス、所沢キャンパス、先端生命医科学センター、中野国際コミュニティプラザにも開催場所を拡大した。また、早稲田小劇場どらま館での学生演劇を早稲田文化芸術週間のイベントとして組み込み、「演劇の早稲田」を広くアピールする機会ともなった。全44イベントを実施し、20,000名を越す方々にお越しいただいた。

早稲田文化芸術週間2016（10/10（月・祝）～21（金））来場者数

No.	カテゴリー	日程	時間	催事名	会場	来場者数
1	イベント	10月10日（月・祝）	12:20～12:50	早稲田文化芸術週間2016 オープニングライブMINI	會津八一記念博物館前	1,000
			18:00～19:20	早稲田文化芸術週間2016 オープニングライブ	大隈記念講堂大講堂	500
2		10月10日（月・祝）	9:00～12:00	秋の散策会「湿地の木道を歩く里山の休日」	所沢キャンパス	11
3		10月10日（月・祝）	15:00～17:30	小川未明文学賞25周年記念フォーラム 小川未明と早稲田の児童文学　ディスカッション・朗読＆フラメンコ	小野記念講堂	260
4		10月11日（火）	17:00～18:30	ミニ落語会「エンパク寄席」※ギャラリートーク付き	演劇博物館　2階企画展示室内	53
5		10月12日（水）	18:15～19:30	芸術の秋、日本の音色～学生と職員による三味線・箏・尺八演奏～	大隈記念講堂大講堂	120
6		10月13日（木）	16:30～18:00	「早稲田魂とおもてなしの心」 ～2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて～	大隈記念講堂小講堂	51
7		10月14日（金）～21日（金）	－	創立記念日カウントダウン企画	大隈銅像周辺	－
8		10月14日（金）	15:30～18:30	立ち上がれ！早稲田地方創生フォーラム	大隈記念講堂大講堂	250
9		10月14日（金）	17:00～20:00	雑誌『亜細亜公論』と早稲田：留学生とアジアの公共空間の創出	大隈記念講堂小講堂	43
10		10月14日（金）	18:30～20:30	音楽家×作家×俳優がつくるステージ「人類のレシピ」	小野記念講堂	141
		10月15日（土）	17:00～19:00			157
11		10月15日（土）	13:30～15:50	トーク「柳家喬太郎×『昭和元禄落語心中』」	大隈記念講堂大講堂	885
12		10月15日（土）	14:00～15:30	システマアンジェリカ主催公演 亜人間都市〈他者への旅路〉第二部『かもめ-越境する-』	早稲田小劇場どらま館	20
		10月15日（土）	19:00～20:30			20
		10月16日（日）	14:00～15:30			17
		10月16日（日）	19:00～20:30			25
		10月17日（月）	13:00～14:30			28
		10月17日（月）	17:00～18:30			15
13		10月16日（日）	13:00～18:00	ダ・ヴィンチ-ゲルニカ　ワークショップ報告会 スペイン内戦から80年―スペイン、イタリアに辿るファシズムとの闘い	大隈記念講堂大講堂	63
14		10月16日（日）	10:00～17:00	3D考古学の挑戦 ―考古遺物・遺構の三次元計測における研究の現状と課題―	大隈記念講堂小講堂	120
		10月17日（月）	10:00～17:00			91
15		10月17日（月）	13:00～14:30	人生で大切なことはシェイクスピアから学んだ ～『ヴェニスの商人』のミニパフォーマンスとトーク～	戸山キャンパス36号館681教室	120
16		10月17日（月）	15:00～17:00	藪野健と巡る キャンパスもミュージアムツアー	スタート地点：小野記念講堂ロビー	18
17		10月18日（火）	18:30～20:00	狂言とシェイクスピアの出会い	大隈記念講堂大講堂	835
18		10月19日（水）	16:30～18:00	国際協力×地域文化～学生にできること～	大隈記念講堂小講堂	44
19		10月19日（水）	16:30～18:30	青少年自殺防止ミュージカル「つまづいても」	小野記念講堂	150
20		10月20日（木）	18:30～20:10	時代を超える名曲、集めました。加藤露弥・早稲田大学混声合唱団	小野記念講堂	183
21		10月21日（金）	11:30～12:15	魅惑のワセメシ紹介ツアー	集合場所：インフォメーションスクエア	17
22		10月21日（金）	12:15～13:00	Museum LIVE 創立記念日記念早稲田スポーツ・アニバーサリーステージ	會津八一記念博物館前	500
23		10月21日（金）	15:00～16:30	早稲田大学中央図書館開館25周年記念講演会　「私と図書館」	国際会議場	557
24		10月21日（金）	17:30～20:00	プロフェッショナルズ・ワークショップ　プレゼン力No.1決定戦	小野記念講堂	114
25		10月21日（金）	18:00～20:30	バイオ芸術の現在：BCL, AKI INOMATA トークイベント	先端生命医科学センター３階ホワイエ	46
26		10月21日（金）	18:30～20:00	早稲田大学交響楽団 WASEDA Anniversary Concert 2016	大隈記念講堂大講堂	358
27		10月21日（金）	19:00～20:30	虚仮華紙×劇団森　企画公演 『女子高生だけどスカート短くなくてごめんね』	早稲田小劇場どらま館	62
28		10月10日（月・祝）	13:00～15:00	漫画研究会プレゼンツ、早稲田の思い出を似顔絵に！	小野記念講堂ロビー	70
		10月14日（金）	16:30～18:30			
		10月15日（土）	15:00～17:00			
		10月19日（水）	14:30～16:30			
		10月20日（木）	16:30～18:30			
		10月21日（金）	15:00～17:00			
29		10月10日（月・祝）～10月21日（金）	－	食も文化だ！文化芸術週間コラボメニュー 「早稲田文化の魂を！文化ツ魂丼（カツ玉丼）」	大隈ガーデンハウス	1,565
					戸山カフェテリア	613
					理工カフェテリア	1,042
					所沢学生食堂	467
30		10月3日（月）～10月14日（金）の平日	－	食も文化だ！ 100円朝食（早大生限定・１日100食限定）	大隈ガーデンハウス	745
					所沢学生食堂	292
		10月17日（月）～10月28日（金）の平日	－		戸山カフェテリア	543
					理工カフェテリア	852
31	展示	10月10日（月・祝）～10月17日（月） ※閉室日あり	10:00～18:00	小川未明文学賞25周年記念フォーラム 小川未明と早稲田の児童文学　ギャラリー展示	ワセダギャラリー	280
32		9月30日（金）～11月6日（日）※閉室日あり	10:00～18:00	「占領期の早稲田 1945～1952―新生への模索―」	125記念室	333
33		2016年10月1日（土）～2017年1月18日（水）	10:00～17:00 ※開室時間の延長日あり	落語とメディア	演劇博物館	2,764
34		2016年10月14日（金）～2017年1月29日（日）	10:00～17:00 ※開室時間の延長日あり	シェイクスピア没後400年記念展示「沙翁復興 ― 逍遙から NINAGAWA まで」	演劇博物館	
35		10月14日（金）～11月19日（土）※閉室日あり	10:00～17:00	殿姫発掘60周年記念甦る九十九里の埴輪群像　―3D考古学の挑戦―	會津八一記念博物館	992
36		10月4日（火）～11月19日（土）※閉室日あり	10:00～17:00	近世の禅書画　―白隠とその会下―	會津八一記念博物館	766
37		9月28日（水）～12月1日（木）	10:00～18:00	己書（おのれしょ）を描く　受講生作品展示	中野国際コミュニティ―プラザ１階	2,245
38		10月10日（月・祝）～10月21日（金）		早稲田スポーツ展	早稲田大学周辺商店連合会各店舗	－
39	ミュージアムツアー	10月12日（水）	15:00～15:30	大隈記念室ツアー	大隈記念室	3
		10月19日（水）	15:00～15:30			10
40		10月13日（木）	15:00～15:30	會津八一記念博物館ツアー	會津八一記念博物館	8
		10月20日（木）	15:00～15:30			4
41		10月14日（金）	13:15～14:15	演劇博物館ツアー	演劇博物館	8
		10月14日（金）	14:30～15:30			
		10月15日（土）	13:15～14:15			2
		10月15日（土）	14:30～15:30			
		10月16日（日）	13:15～14:15			4
		10月16日（日）	14:30～15:30			
		10月21日（金）	13:15～14:15			5
		10月21日（金）	14:30～15:30			
42		10月19日（水）	16:00～16:30	125記念室ツアー	125記念室	8
43	スタンプラリー	10月10日（月・祝）～10月21日（金） ※16日（日）、19日（水）除く	10:00～16:30	謎解きミュージアムスタンプラリー	スタート地点：演劇博物館１階廊下	121
44		10月16日（日）	10:00～17:00	家族で楽しむ・環境ロドリゲスプレゼンツ、環境博士になろう！スタンプラリー	４号館２階全教室	28
					のべ	20,644

文化事業

2016年度　出品・展示協力

【坪内博士記念演劇博物館】

期　　間	展覧会名称	申請者団体名
6月25日～8月7日	鬼才ー河鍋暁斎展　幕末と明治を生きた絵師	富山県水墨美術館
9月17日～11月6日	石川県立歴史博物館開館30周年記念　平成28年度秋季特別展「城下町金沢は大にぎわい！」	石川県立歴史博物館
10月1日～11月27日	田中芳男没後100年記念特別展「日本の近代化に挑んだ人びとー田中芳男と南信州の偉人たちー」	飯田市美術博物館
10月1日～12月11日	特別展「ビブリア古書堂の事件手帖」	鎌倉文学館
11月16日～12月19日	特別企画展「美人の里・草加…笠森お仙」	草加市立中央図書館
2016年11月26日～2017年1月28日	特別展「国利劇場開場50周年記念　日本の伝統芸能展」	三井記念美術館
2016年12月23日～2017年3月26日	會津八一没後60年　企画展「會津八一と刻字」	新潟市會津八一記念館

【會津八一記念博物館】

期　　間	展覧会名称	申請者団体名
3月23日～5月15日	特別展「生誕150年　黒田清輝ー日本近代絵画の巨匠」	東京国立博物館
5月21日～10月10日	1945年±5年	兵庫県立美術館、広島市現代美術館
9月18日～11月13日	朝井閑右衛門展　空想の饗宴	練馬区立美術館
10月7日～11月27日	特別企画展「日本磁器誕生」	佐賀県立九州陶磁文化館
9月23日～12月18日	文人として生きるー浦上玉堂と春琴・秋琴　父子の芸術	岡山県立美術館、千葉市美術館
2017年2月12日～3月26日	日本におけるキュビスムーピカソ・インパクト	鳥取県立博物館、埼玉県立近代美術館、高知県立美術館
2017年2月25日～3月26日	江戸に長崎がやってきた！　長崎版画と異国の面影	板橋区立美術館
2017年2月11日～3月20日	企画展「早稲田から世界へ ー大隈重信の民間外交ー」	佐賀市大隈記念館
2017年4月1日～6月25日	生誕100年　長沢節展	弥生美術館

【大学史資料センター】

期　　間	展覧会名称	申請者団体名
5月28日	平成28年度　群馬会館イベント	群馬会館
10月1日～12月11日	第94回企画展　角田柳作とドナルド・キーンー群馬から世界へー	群馬県立土屋文明記念文化館
10月23日	平成28年度　渋沢栄一講演会	渋沢栄一記念館
10月8日～11月30日	秋季特別展「明治の盆栽事情ー昭和のお父さんの背景」	さいたま市大宮盆栽美術館
10月30日	動橋地区文化祭　「ふるさと動橋の生んだ偉人　前坂重太郎」	加賀市動橋まちづくり推進協議会
11月9日～12月2日	憲政記念館特別展「普通選挙をめざしてー犬養毅・尾崎行雄ー」	NHKサービスセンター
2017年2月3日～3月20日	鍋島直正銅像完成記念特別展「直正と斉彬」	佐賀県立佐賀城本丸歴史館
2017年2月11日～3月20日	企画展「早稲田から世界へ ー大隈重信の民間外交ー」	佐賀市大隈記念館

【文化企画課】

期　　間	展覧会名称	申請者団体名
5月13日～5月28日	文化装置としての『源氏物語』ー九曜文庫を中心にー	中古文学会、早稲田大学図書館

地域交流事業

文化推進部は、本学の優れた文化資源を公開し各地の教育研究活動に役立て、また本学が有する人的資源を地域社会の教育や文化推進に活用し社会貢献するため、さまざまな文化事業を展開している。本学のキャンパスが所在する地域や包括協定・文化交流協定を締結した地域で、大学が所蔵する貴重な文化財を巡回展覧会により公開している。また、地域の行政・企業・住民と連携して、本学の学生・教職員に校友も加わり、演劇・映画・映像・音楽・文学・芸術・科学・スポーツなどの多様なイベントを協働で実施している。

1．福島県白河市

2014年、白河市と早稲田大学間の文化交流事業としてスタートした。これまで会場として利用してきた白河市民会館が、新たな文化発信拠点「白河文化交流館コミネス」開館に伴い2016年９月末で閉館することなったため、本年度は「さよならイベント」としての開催となった。第1部は本学出身の噺家、川柳つくし師匠、桂右團治師匠による「ワセジョ落語会」。第２部は本学が誇る男声合唱団「グリークラブ」によるコンサートを行った。第２部の後半では、白河市がこの公演のために結成した93名からなる「市民特設女声合唱団」と「グリークラブ」による混声合唱を実施。総勢144名からなる大合唱団が白河市の市民歌など３曲を熱唱し、市民会館のフィナーレを飾った。またコンサートの前日には、グリークラブの団員が市内の老人福祉施設２件を訪問し、ミニコンサートを実施。歌を通じて、大学生と地域の方々との交流が行われた。

■白河市・早稲田大学交流事業
「白河市民会館さよならイベント　～52年間の感謝を込めて～」

日　　時：８月６日（土）13：30～15：45
会　　場：白河市民会館
主　　催：白河市、早稲田大学
参　　加：約800名

2．長野県軽井沢町

本学セミナーハウスを有する軽井沢町で人的交流をとおして本学の魅力を理解していただくため、理工学術院教職員の指導による小学生を対象とした「おもしろ科学実験教室」を1998年から毎年開催している。恵まれた自然環境や広大で豊富な運動施設を誇る軽井沢セミナーハウスの中で、親子がふれあいながら楽しく学んでいる。

■軽井沢町・早稲田大学交流事業「第19回おもしろ科学実験教室」

日　　時：７月23日（土）10：00～11：45（午前の部）
　　13：15～15：00（午後の部）
会　　場：軽井沢セミナーハウス
主　　催：軽井沢町、早稲田大学
参　　加：小学生100名およびその父兄
内　　容：①輝け！世界に一つだけのオリンピックトーチをつくろう（小学校１～３年生対象）
　　②発見！紫キャベツの七変化！植物色素でpHを測定しよう（小学校４～６年生対象）

■軽井沢町・早稲田大学交流事業　講演会

日　　時：2017年２月19日（日）
　　13：00～14：30
会　　場：軽井沢町中央公民館
主　　催：軽井沢町教育委員会、早稲田大学
参　　加：44名
内　　容：「こんなに、火山は生きている」
講　　師：山田耕（政治経済学部准教授）

3．佐賀県佐賀市

早稲田大学は2006年12月19日、大隈重信の出身地である佐賀県と「連携協働に関する基本協定」を締結し、さまざまな教育・研究の協働事業を展開している。また、佐賀市には大隈候生誕125周年を記念して開館した大隈記念館と国の指定史跡である大隈重信旧宅（生家）があり、毎年２月中旬から３月下旬の「佐賀城下ひなまつり」に合わせて企画展覧会を開催している。早稲田大学との文化事業の窓口は文化企画課が担い、文化推進部三機関のほか本学図書館が協力し、各機関が所蔵する文化財・美術品を貸し出し、展覧会に貢献している。

■「平成28年度　大隈祭」

日　　時：５月８日（日）10：00～14：00
会　　場：佐賀市大隈記念館・同銅像前広場
主　　催：佐賀市大隈記念館保存会
　　※本学は校友会佐賀県支部とともに協力
記念講演：「大隈重信は何を語ったかー最新刊『演説談話集』を読む」
講　　師：大日方純夫
　　（大学史資料センター所長）

4．岐阜県加茂郡八百津町

早稲田大学を母校とし、「命のビザ」で知られる杉原千畝が育った、岐阜県加茂郡八百津町において、2016年度に実施された地域交流事業。今回は以下の催し物が実施された。また、コンサート翌日は合唱団が町内の「八百津中学校」「八百津東部中学校」を訪問。本学の校歌や応援歌、合唱団のメインレパートリーを披露するミニコンサートを行った後、中学生たちの合唱にアドバイスを行ったほか、中学生と一緒に給食を食べるなどして交流を深めた。

中学校訪問後は合唱団から選抜された５名が町の教育委員会を訪れ、町の若手職員と今後の町づくりに対し必要なことは何か、について意見交換を行った。

■岐阜県八百津町交流事業「ワセダ・ヒューマニティー・コンサート'16」

日　　時：８月31日（水）19：00〜20：30
会　　場：八百津町ファミリーセンター
主　　催：八百津町、早稲田大学
参　　加：約510名
内　　容：早稲田大学混声合唱団による3Stage構成。
1st Stage 東京混声合唱団愛唱曲集「島唄」
2nd Stage 早混　ア・ラ・カルト
3rd Stage「唱歌の四季」

5．東京都

東京都との地域交流事業として、以下の催し物の後援した。

■「歴史的建造物の保存を支援するチャリティコンサート」

2014年度より東京都の「東京歴史まちづくりファンド」の一環として実施されているイベント。「歴史的建造物」を次世代に引き継ぐ貴重な景観資料であるという観点から、国の重要文化財である大隈記念講堂にてチャリティーコンサート並びに大隈記念講堂を設計した佐藤総合計画による講演会を行った。本学のシンボル的な存在である大隈記念講堂を、より多くの方に紹介する企画となった。

日　　時：７月22日（金）18：00〜20：30
会　　場：大隈記念講堂大講堂
主　　催：東京都都市整備局
後　　援：早稲田大学文化推進部、新宿区
早稲田大学周辺商店連合会
参　　加：約500名

6．中野区

中野区との地域交流事業として、2010年より早稲田大学交響楽団による「Maple Concert」（メープルコンサート）を開催している。2017年度には中野区と早稲田大学の絆をさらに深める好機となることを願い、新企画「LINK 〜ナカノとワセダをつなげるlive〜」も実施した。

■中野区・早稲田大学文化交流事業　早稲田大学交響楽団「Maple Concert 2016」

日　　時：５月15日（日）14：00〜16：00
会　　場：なかのZERO大ホール
主　　催：中野区、早稲田大学
協　　力：なかのZERO指定管理者
指　　揮：曽我大介
（東京ニューシティ管弦楽団正指揮者）

「ワセオケ」の愛称で親しまれる早稲田大学公認のオーケストラ「早稲田大学交響楽団」によるコンサート。中野区と早稲田大学との文化交流事業として、2010年度に開始し、７年連続７回目の開催。804名の来場者を記録。

■中野区・早稲田大学文化交流事業「LINK 〜ナカノとワセダをつなげるlive〜」

日　　時：2017年３月20日（月・祝）14：00〜15：40
会　　場：野方区民ホール
出　　演：津軽三味線愛好会三津巴（三味線）、infinity（ジャグリング）
オルケスタ・デ・タンゴ・ワセダ（アルゼンチン・タンゴ）
主　　催：中野区、早稲田大学
協　　力：なかのZERO指定管理者

中野区より更なる連携強化の起爆剤として、本学学生団体によるパフォーマンスの実施の要望があり、全サークルに公募を行い、手を挙げた３団体を採用。各団体のパフォーマンスのほか、３団体によるコラボレーションも披露した。ほぼ満席の220名が来場。

7．静岡県熱海市

熱海市は坪内逍遙終焉の地で、終の棲家となった双柿舎や墓所の海蔵寺があるほか、逍遙自ら作詞した市歌や、創立に尽力したとされる市立図書館など、逍遙の足跡が多く残る。熱海市と演劇博物館は協力して坪内逍遙顕彰事業を実施しており、命日の２月28日には毎年共催で「逍遙忌記念祭」を開催し、講演会を行っている。また記念祭に合わせ、熱海市教育委員会・熱海稲門会・美濃加茂市・演劇博物館・本学総務が参加し、逍遙顕彰事業に関する意見交換会を行っている。

■第46回逍遙忌記念祭

日　　時：2017年２月28日（火）13：00～
会　　場：熱海市「起雲閣」（音楽サロン）
主　　催：熱海市、熱海稲門会、演劇博物館
内　　容：お慕いのことば（熱海市長、熱海稲門会会長、演劇博物館館長）
逍遙ゆかりの歌斉唱（坪内逍遙のうた保存会）
記念講演「日本のシェイクスピアー坪内逍遙から蜷川幸雄までー」児玉竜一（演劇博物館副館長）

8．新宿区

（1）催し物の後援・協力（文化推進部）　新宿区との地域交流事業として、今年度は以下の催し物の後援・協力を行った。

■平成28年度　新宿区夏目漱石コンクール
読書感想文コンクール「わたしの漱石、わたしの一行」（中学生の部・高校生の部）

応募期間：６月20日（月）～９月16日（金）
表 彰 式：12月11日（日）
会　　場：大隈記念講堂大講堂
主　　催：新宿区
後　　援：早稲田大学ほか
審 査 員：審査委員長　森まゆみ（作家）
審査委員　中島国彦（早稲田大学名誉教授）
久保庭健吉（日本国語教育学会常任理事）
吉住健一（新宿区長）
酒井敏男（新宿区教育長）

なお、中学生の部、高校生の部、それぞれに「早稲田大学賞」を顕彰している。

■平成28年度　新宿区夏目漱石コンクール
絵画コンクール「猫になって描いてみよう～わがはいはネコである～」（小学生の部）

応募期間：６月20日（月）～９月16日（金）
表 彰 式：12月11日（日）
会　　場：大隈記念講堂大講堂
主　　催：新宿区
後　　援：早稲田大学ほか
審 査 員：審査委員長　森まゆみ（作家）
審査委員　藪野健（府中市美術館館長、日本藝術院会員、早稲田大学栄誉フェロー）
南口清二（一般社団法人二紀会理事）
吉住健一（新宿区長）
酒井敏男（新宿区教育長）

なお、小学生低学年の部、小学生高学年の部、それぞれに「早稲田大学賞」を顕彰している。

■第７回　早稲田の街スプリングコンサート

日　　時：2017年３月12日（日）13：00～16：00
会　　場：大隈記念講堂大講堂
主　　催：早稲田の街スプリングコンサート実行委員会
後　　援：新宿区・新宿区教育委員会
協　　賛：早稲田宝泉寺、早稲田大学周辺商店連合会
協　　力：文化推進部、社会福祉法人新宿区社会福祉協議会
出店協力：社会福祉法人東京都知的障害者育成会「新宿区立新宿生活実習所」
社会福祉法人新宿あした会「新宿第二あした作業所」

（2）平成28年度　文化庁補助事業「新宿から文化を発信する演劇博物館創造活動事業」（演劇博物館）

2015年度に引き続き、文化庁が実施する「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」として認定を受けた本事業では、新宿区の文化観光課や教育委員会、公益財団法人新宿未来創造財団などと連携し、新宿を中心とした地域の文化・観光の振興、演劇博物館の多言語化、新機能の創造などを目指してさまざまな展示・講座・イベントを実施した。

催物名	日　程	会　場	講師・出演
「あゝ新宿―スペクタクルとしての都市」展 関連座談会 「文化の街・新宿の歴史と未来 ～街を支えるリーダーたち～」	6月30日(木)	国際会議場　井深大記念ホール	吉住健一（新宿区長） 高井昌史（紀伊國屋書店代表取締役会長兼社長） 染谷省三（中村屋取締役相談役） 髙野吉太郎（新宿高野代表取締役社長） 鎌田薫（早稲田大学総長） 岡室美奈子（演劇博物館館長）（司会）
「あゝ新宿―スペクタクルとしての都市」展 関連上映会＆トーク 「新宿 1968―69 ドキュメンタリー/ハプニング/ジャズ」	7月8日(金)	大隈記念講堂大講堂	山下洋輔（ジャズピアニスト） 田原総一朗（ジャーナリスト） 五箇公貴（テレビ東京プロデューサー） 宮沢章夫（劇作家・演出家・批評家・早稲田大学教授） 松井茂（情報科学芸術大学院大学准教授） 岡室美奈子（演劇博物館館長）（司会）
多言語展示解説「enpaku多言語ツアー」	7月18日(月)、29日(金) 10月10日(月)、17日(月) 29日(土) 11月11日(金)、23日(水)	演劇博物館	※双柿会解説員と通訳による館内ガイドツアー （英語・中国語・韓国語）
体験型展示「昔の寄席にタイムスリップ！」	2016年10月1日(土)～ 2017年1月18日(水)	演劇博物館2階　企画展示室	
ミニ落語会「エンパク寄席」 ※ギャラリートーク付き	10月11日(火)	演劇博物館2階　企画展示室	出演：柳家緑太、金原亭馬久
「落語とメディア」同時開催イベント 落語公演「柳家小三治一門会」	10月25日(火)	大隈記念講堂大講堂	出演：柳家小三治、柳家ろべえ、柳家そのじ 柳家小はぜ
ミニ落語会「エンパク寄席」 ※ギャラリートーク付き	11月15日(火)	演劇博物館2階　企画展示室	出演：柳亭市童、金原亭馬久
日本の伝統文化体験講座〈狂言〉	11月16日(水) 12月14日(水) 2017年1月19日(木) 2017年2月1日(水)	東京都立江東特別支援学校 新宿区立新宿養護学校 東京都立光明特別支援学校そよ風分教室 東京都立八王子特別支援学校	講師：善竹十郎、善竹大二郎
「落語とメディア」同時開催イベント 落語公演「日本演芸若手研精会 in 早稲田」	11月30日(水)	大隈記念講堂小講堂	出演：春風亭正太郎、春風亭昇々、桂宮治 入船亭小辰、柳家緑太、柳家小多け
日本の伝統文化体験講座〈常磐津〉	12月1日(木)	東京都立光明特別支援学校	講師：常磐津和英太夫、常磐津菊与志郎
ミニ落語会「エンパク寄席」 ※ギャラリートーク付き	12月13日(火)	演劇博物館2階　企画展示室	出演：柳亭緑太、柳亭市童

9. 千葉県鴨川市

鴨川市と本学の間で「鴨川市太海多目的公益用地に関する基本合意書」（セミナーハウスの誘致）の締結をしたことを契機に、鴨川市民に早稲田大学を理解していただくため、1998年より開始した交流事業である。安房地域の小学生を対象とした理工学術院教職員の指導による「おもしろ科学実験教室」の開催を中心に、講演会やキャンパスツアーなどさまざまな事業を実施している。

■鴨川市・早稲田大学交流事業
「第19回おもしろ科学実験教室」

日　　時：８月24日（水）９：30〜12：00（午前の部）
　　13：30〜16：00（午後の部）
会　　場：鴨川市文化体育館（鴨川ドーム）
主　　催：鴨川市、早稲田大学
参　　加：小学生180名およびその父兄
内　　容：①色と光の世界をのぞこう（小学校４〜６年生対象）
　　②君だけのリニアモーターカーを作ろう！（小学校４〜６年生対象）
　　③不思議なプロペラを作ろう！（小学校１〜３年生対象）
　　④オリジナルペーパーフラワーをつくろう（小学校１〜３年生対象）

■鴨川市・早稲田大学交流事業　講演会

日　　時：2017年３月19日（日）13：30〜15：30
会　　場：鴨川市文化体育館
主　　催：鴨川市、早稲田大学
参　　加：30名
内　　容：「たのもしい青少年をいかに育てるか」
講　　師：奥島孝康（元早稲田大学総長）

10. 岐阜県美濃加茂市

2007年４月、文化推進部発足を機に、本学は坪内逍遙と津田左右吉の生誕地である美濃加茂市と「文化交流協定」を締結した。

美濃加茂市は逍遙の功績を称え市民文化の向上を図るため、1994年に「坪内逍遙大賞」を創設し、演劇分野において坪内逍遙の功績を再認識させるような優秀な活動・著作を表彰している。本学は文化交流協定の一環として2007年に「早稲田大学坪内逍遙大賞」（48ページ参照）を制定し、互いに隔年で授賞することとなった。

このほか、以下のさまざまな交流事業を実施している。

（1）学生演劇公演（文化推進部）

学内公募で選ばれた本学の学生劇団が、みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアムに約１週間合宿し野外公演を行う企画で、2008年より毎年９月に実施。滞在中に県立加茂高等学校などでの演劇ワークショップ、坪内逍遙博士顕彰会との交流、坪内逍遙に関する学習なども行ってきた。

■第９回美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業学生公演
早稲田大学劇団森「上海標本日記」

日　　時：９月10日（土）、11日（日）18：30〜
会　　場：みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム　芝生広場（雨天時エントランスホール）
作・演出：間宮きりん
出　　演：早稲田大学劇団森ほか
主　　催：文化推進部、みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム
協　　力：坪内逍遙博士顕彰会
来場者（のべ）：146名

（2）「木立に響く逍遙」後援（演劇博物館）

2010年度より毎年秋に、みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム主催で開催される邦楽による逍遙作品の演奏会。第７回となった2016年度はシェイクスピア没後400年の節目にあたる年であることから、四大悲劇のひとつ「マクベス」を題材に、坪内逍遙による訳文を使って、笛・謡・浄瑠璃・囃子という日本の伝統的な声と音によって、マクベス王の心の動きを中心に描いた。

■木立に響く逍遙　vol. 7

日　　時：10月12日（水）18：30～20：00
会　　場：みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム　エントランスホール
内　　容：「木立に響く逍遙」企画・監修…濱口久仁子（演劇博物館招聘研究員）
「マクベス解題」お話…濱口久仁子
「マクベス　笛・謡・浄瑠璃・囃子による」
シェイクスピア作　坪内逍遙訳　マクベスより　作曲・構成…福原徹
出　　演：福原徹（笛）、小早川修（謡）、都了中（浄瑠璃）、福原百之助（囃子）
主　　催：美濃加茂市、坪内逍遙作品研究・上演実行委員会
後　　援：演劇博物館
協　　力：坪内逍遙博士顕彰会

（3）「坪内逍遙大賞受賞者記念事業」協力（文化推進部、演劇博物館）

■第16回坪内逍遙大賞

日　　時：８月27日（土）14：00～17：00
会　　場：美濃加茂市文化会館
内　　容：授賞式…受賞者　渡辺美佐子（女優）
長崎市「青少年ピースフォーラム」報告会
朗読劇「夏の雲は忘れない」
構成・制作：「夏の会」
出　　演：大橋芳枝、長内美那子、高田敏江、寺田路恵、柳川慶子、渡辺美佐子
兼松唯乃、嶋田光希、高木紗英、豊田萌華、マグバヌア エライザ
（以上５名、美濃加茂市立太田小学校）
主　　催：美濃加茂市、坪内逍遙作品研究・上演実行委員会
協　　力：文化推進部、演劇博物館、坪内逍遙博士顕彰会

（4）「逍遙フォーラム」後援（演劇博物館）

■第17回逍遙フォーラム

日　　時：５月22日（日）18：30～20：30
会　　場：瑞穂文化小劇場
内　　容：【第一部】講演「坪内逍遙のシェイクスピア翻訳『固有物質の発展・浄化』」（ダニエル・ガリモア）
【第二部】朗読 逍遙訳「ベニスの商人」法廷の場（坪内逍遙 ※録音による鑑賞）
【第三部】逍遙訳「ベニスの商人」法廷の場 現代語訳上演（劇団シアター・ウィークエンド）
主　　催：逍遙フォーラム実行委員会、坪内逍遙博士顕彰会、美濃加茂市
協　　力：演劇博物館、名古屋稲門クラブ、愛知県稲門教育会

11. 新潟県新潟市

■2016年「會津八一の歌を映す」第10回秋艸道人賞・写真コンテスト

応募期間：11月４日（金）～11月15日（火）
表 彰 式：2017年２月10日（金）
主　　催：新潟市會津八一記念館
共　　催：會津八一記念博物館、新潟市ほか
協　　賛：セコム上信、コニカミノルタNCほか
審 査 員：浅井愼平（写真家）、和泉久子（鶴見大学名誉教授）、若松保広（仏教美術写真家）
神林恒道（新潟市會津八一記念館館長）、塚原史（會津八一記念博物館館長）

■2016年「會津八一の歌を映す」第10回秋艸道人賞・写真コンテスト入賞作品展示

新潟市會津八一記念館：2016年12月23日（金）～2017年３月26日（日）
會津八一記念博物館：2017年４月１日（土）～４月22日（土）

顕　彰　事　業

1．早稲田大学坪内逍遙大賞

2007年に迎えた創立125周年を記念して、近代日本の文芸・文化の創造者ともいうべき坪内逍遙の偉業を顕彰すると同時に、その精神を広く未来の文化の新たな創出につなげるという願いから、文芸をはじめとする文化芸術活動において著しい貢献をなした個人（もしくは団体）を顕彰すべく、「早稲田大学坪内逍遙大賞」を創設した。また、これからの文化の担い手である若い才能を応援すべく、奨励賞を併せて創設した。あまたある文芸・文化関係の賞の中で、広く開かれた独自の意義を担う賞を目指してゆきたいと考えている。文芸・文化・芸術活動の中から、隔年で「大賞」１名、「奨励賞」１名を選んで顕彰する。副賞として記念のメダルと大賞100万円、奨励賞50万円を贈呈している。

早稲田大学は、文化推進部が2007年４月に発足したのを機に、美濃加茂市との間で同年春に文化交流協定を締結した。この協定の精神には本学の地域連携の理念がある。具体的には早稲田大学と美濃加茂市とが、隔年で独自の選考基準に基づきつつも坪内逍遙大賞を選考し、結果的に毎年の授賞を実現しようというものである。美濃加茂市坪内逍遙大賞が演劇人の顕彰であるのに対して、早稲田大学坪内逍遙大賞は坪内逍遙の業績に鑑み、文芸をはじめとする文化全般に貢献した人々を顕彰することを目指している。

過去の受賞者

受賞年度	坪内逍遙大賞	奨 励 賞
2007（第１回）	村上　春樹	川上未映子
2009（第２回）	多和田葉子	木内　　昇
2011（第３回）	野田　秀樹	円城　　塔
2013（第４回）	小川　洋子	小野　正嗣、山田　　航
2015（第５回）	伊藤比呂美	福永　　信

2．若山牧水青春短歌大賞（宮崎県延岡市）

宮崎県出身の歌人、若山牧水（1885～1928年）を顕彰する短歌募集事業。若山は旧制延岡中学を経て、早稲田大学英文科卒（1908年）。同級生の北原白秋（射水）、中林蘇水と親交を厚くし、「早稲田の三水」と呼ばれる。

毎年、全都道府県から広く募集し、短歌大賞、優秀賞などを決定しているが、早稲田大学は「審査員特別賞　早稲田大学賞」として、３名顕彰している。

3．梓立祭作文・絵画コンクール（高知県宿毛市）

梓立祭（しりつさい）は、「学苑創立の母」といわれる小野梓（1852～1886年）の誕生日２月20日（新暦の３月10日）を記念日として祝う祭りである。梓立祭は小野梓の研究をとおして、教育文化・芸術の向上を図りながら、宿毛の偉人たちも順次顕彰し、過去の偉人達の足跡に学びながら青少年の健全育成や宿毛の文化・教育の発展に寄与することを目的とする。

梓立祭では、作文・絵画コンクールを実施し、最優秀賞、優秀賞、奨励賞を小学生、中学生各１名を顕彰している。

4．旺文社主催「全国学芸サイエンスコンクール」

旺文社が主催となって、「全国の小・中・高校生の研究・アートおよび文芸の振興奨励と、青少年の個性の育成」を目的として、1957年から行われている顕彰事業。

このコンクールは、幅広く多様な分野に部門を設け、児童・生徒がそれぞれの得意分野で制作した作品を応募するコンクールとなっている。優秀作品には、内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞・環境大臣賞などが授与される。早稲田大学は「早稲田大学総長賞」として、文芸Ⅰ（小説・詩部門）の最優秀者を表彰している。

5．小川未明文学賞（新潟県上越市）

上越市が生んだ日本児童文学の父、小川未明（1882～1961年）の作品および業績を広く市内外に紹介するとともに、子供の感性や想像力を育むといった理念で設立された顕彰事業。未明は早稲田大学英文科在学中より執筆活動を開始し、1905年に卒業。生涯で1,000点以上の作品を世に送り出し、「日本のアンデルセン」として読者に親しまれている。小川未明文学賞は、小学生を対象にした創作児童文学に与えられる文学賞である。文化推進部は、後援顕彰事業として行っている。

学術研究書出版制度

1．学術情報発信の基盤としての出版事業

2008年度からスタートした学術研究書出版制度は、「大学の研究教育の内容やその水準を直接に体現する手段のひとつであり、当該大学にとって枢要な使命を担う」と位置付け、その充実こそが、大学全体のアカデミック・ステイタスの維持・向上に直結するという考えを示してきた。これまで研究教育活動や多様な文化事業の成果を効果的に発信するために、早稲田大学と早稲田大学出版部は連携してきた。

出版事業が学術情報発信の基盤をなすという認識から、大学が直接これに関わって、自らの使命を果たすことが、学術研究書出版制度の主旨であるといえる。

2．学術研究書出版制度の見直しについて

学術研究書出版制度について以下の見直しを行い、新たな制度のもと、2016年度に２種類の学術叢書を発行した。

（1）２種類の学術研究書シリーズ　―　学術叢書とエウプラクシス叢書

「早稲田大学学術叢書」は、本学のアカデミック・ステイタスの維持・向上を目的とし、良質な学術研究書の出版機会を引き続き提供する。

また、以前の「早稲田大学モノグラフ」に代わって、新鋭研究者のための叢書「早稲田大学エウプラクシス叢書」（「エウプラクシス」は、ギリシャ語で「成功を収めた実績」の意味）を発刊し、出版経験の少ない研究者に対して出版機会を提供するため、出版部の専門の編集者が入稿から刊行まで、原稿の完成に向けて支援する体制を作る。いずれも上製本のA5判とし、ページ数、字数などの詳細は募集要項に記載する。

（2）審査のプロセスと採否の最終決定について

「書面審査」では、学内外の複数の専門審査員に、原稿と提出書類に基づく審査および評価を行う。専門審査員は、応募分野の専門研究者を中心に研究者データベースなどから抽出し選定する。学位論文をベースにしている場合は、指導教員などの関係者は除かれ、公正性を維持する。「書面審査」による評価点に、出版物としての市場性の観点から出版部編集者の意見を加え、学事統括常任理事および文化推進担当理事が最終決定を行う。

（3）出版企画委員会の役割

委員会は、文化推進を担当する理事からの諮問を受けて、レベルの高い学術文化情報の発信、国際社会における本学のアカデミック・ステイタスの向上を目指して、この制度における学術書と学内外の優れた学術研究成果の応募促進のために審議する。

（4）応募資格の拡大と募集要項などの見直し

上記の改善に伴い、「早稲田大学学術叢書」および「早稲田大学エウプラクシス叢書」の応募資格を拡大し、募集要項、審査要領などの内容を見直す（募集要項の詳細については、ウェブサイト「早稲田文化」の学術出版支援の欄を参照）。

学術叢書刊行一覧（2009年３月～2016年３月）

刊行No.	書　　名	刊行No.	書　　名
学術叢書１	濱川栄『中国古代の社会と黄河』	学術叢書15	上野和昭『平曲譜本による近世京都アクセントの史的研究』
学術叢書２	真辺将之『東京専門学校の研究』	学術叢書16	Ayako Yoshino『Pageant Fever』
学術叢書３	中垣啓『命題的推論の理論』	学術叢書17	河西宏祐『全契約社員の正社員化』
学術叢書４	堀真清『一亡命者の記録』	学術叢書18	市川熹『対話のことばの科学』
学術叢書５	藤井千春『ジョン・デューイの経験主義哲学における思考論』	学術叢書19	伊藤りさ『人形浄瑠璃のドラマツルギー』
学術叢書６	鳥越皓之『霞ヶ浦の環境と水辺の暮らし』	学術叢書20	石濱裕美子『清朝とチベット仏教』
学術叢書７	山内晴子『朝河貫一論』	学術叢書21	黒崎剛『ヘーゲル・未完の弁証法』
学術叢書８	金孝淑『源氏物語の言葉と異国』	学術叢書22	片木淳『日独比較研究市町村合併』
学術叢書９	鈴木勘一郎『経営変革と組織ダイナミズム』	学術叢書23	Rieko Suzuki『Negotiating History』
学術叢書10	佐藤洋一『帝政期のウラジオストク』	学術叢書24	杵渕博樹『人類は原子力で滅亡した』
学術叢書11	五十嵐誠一『民主化と市民社会の新地平』	学術叢書25	奥野武志『兵式体操成立史の研究』
学術叢書12	内田悦生・下田一太（コラム執筆）『石が語るアンコール遺跡』	学術叢書26	井黒忍『分水と支配』
学術叢書13	青木雅浩『モンゴル近現代史研究』	学術叢書27	岩佐壯四郎『島村抱月の文藝批評と美学理論』
学術叢書14	飯山知保『金元時代の華北社会と科挙制度』	学術叢書28	高橋弘幸『企業競争力と人材技能』

学術研究書出版制度

刊行No.	書　　名
学術叢書29	高橋勝幸『アジア冷戦に挑んだ平和運動』
学術叢書30	小松志朗『人道的介入』
学術叢書31	渡邉将智『後漢政治制度の研究』
学術叢書32	石井裕晶『制度変革の政治経済過程』
学術叢書33	森佳子『オッフェンバックと大衆芸術』
学術叢書34	北山夕華『英国のシティズンシップ教育』
学術叢書35	Yoshio Ueno『An Automodular View of English Grammar』
学術叢書36	森祐司『地域銀行の経営行動』
学術叢書37	竹中晃二『アクティブ・ライフスタイルの構築』
学術叢書38	渡邊詞男『格差社会の住宅政策』

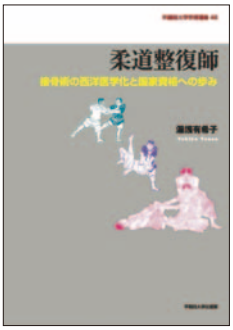
刊行No.	書　　名
学術叢書39	岩田圭一『アリストテレスの存在論』
学術叢書40	藤岡典夫『環境リスク管理の法原則』
学術叢書41	陳丹舟『中国独占禁止法－法体系とカルテル規制の研究』
学術叢書42	Yoshio Ueno『An Automodular View of Ellipsis』
学術叢書43	小松寛『日本復帰と反復帰－戦後沖縄ナショナリズムの展開』
学術叢書44	工藤龍太『近代武道・合気道の形成－「合気」の技術と思想』
学術叢書45	牟倫海『戦後日本の対外文化政策－1952年から72年における再編成の模索』
学術叢書46	楯身智志『前漢国家構造の研究』
学術叢書47	李軍『日中漢字文化をいかした漢字・語彙指導法－「覚える」から「考える」へ』

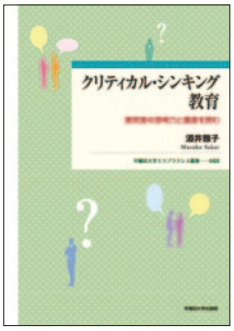
学術叢書刊行一覧（2016年４月～2017年３月）

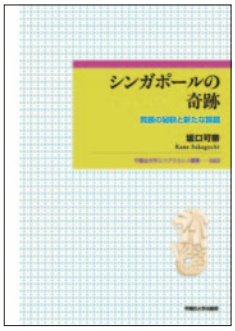
刊行No.	書　　名
学術叢書48	湯浅有希子『柔道整復師－接骨術の西洋医学化と国家資格への歩み』
学術叢書49	谷口建速『長沙走馬楼呉簡の研究－倉庫関連簿よりみる孫呉政権の地方財政』
学術叢書50	上野義雄『現代日本語の文法構造－形態論編』
学術叢書51	上野義雄『現代日本語の文法構造－統語論編』

エウプラクシス叢書刊行一覧（2016年４月～2017年３月）

刊行No.	書　　名
エウプラクシス叢書１	島崎崇史『ヘルスコミュニケーション－健康行動を習慣化させるための支援』
エウプラクシス叢書２	酒井雅子『クリティカル・シンキング教育－探求型の思考力と態度を育む』
エウプラクシス叢書３	坂口可奈『シンガポールの奇跡－発展の秘訣と新たな課題』
エウプラクシス叢書４	楢山満照『蜀の美術－鏡と石造遺物にみる後漢期の四川文化』







2016 年度　刊行物

文化推進部の各機関では、所蔵資料の目録、展覧会の図録、研究紀要などを定期的に発行している。2016年度に刊行されたものは以下の通りである。なお、価格は2017年３月31日現在のものである。

【演劇博物館】

（1）演劇博物館報 enpaku book 113号

発行：2017年３月22日
B5判　82ページ
価格：700円（税込）

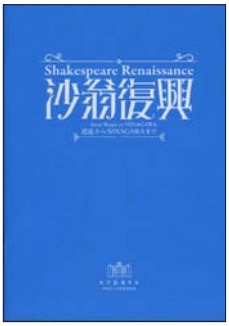
（2）図録 あゝ新宿－スペクタクルとしての都市

発行：2016年６月20日
A5判　160ページ
価格：2,000円（本館・６号館事務所または早稲田大学生協で購入すると税込2,000円）

（3）図録 落語とメディア

発行：2016年10月１日
B5判　120ページ
価格：1,500円（税込）
完売

（4）沙翁復興 ― 逍遙から NINAGAWA まで Shakespeare Renaissance - from Shoyo to NINAGAWA

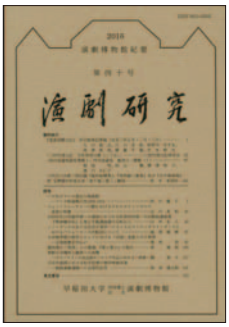


発行：2016年10月14日
B5判　32ページ　無料

（5）日仏演劇国際シンポジウム「越境する　翻訳・翻案・異文化交流」

発行：2017年２月15日
B5判　140ページ
【研究】演劇映像学連携研究拠点 成果報告集

（6）紀要 演劇研究 第四十号



―目　次―

【資料紹介】
・『葛巻昌興日記』所引能楽記事稿（貞享三年正月・二月・三月）....入口敦志、江口文恵、田草川みずき、深澤希望、柳瀬千穂、竹本幹夫
・「三村竹清日記 不秋草堂日暦（二十五）」....三村竹清日記研究会
・＜坪内逍遙宛諸家書簡２＞坪内逍遙宛 會津八一書簡（２）....菊池明、松山薫、柳澤和子、濱口久仁子
・六代目六合新三郎旧蔵『猿若秘傳書』、『寿世嗣三番叟』及び『古今振姿視』附 宝暦期中村座台本「翁千歳三番三」翻刻....青木亜里砂
【研究論文】
・パテ社のマニラ進出と映画館－マニラ映画興行史1909-1910....笹川慶子
・ジョン・フレッチャーの劇におけるホモエロティシズムの表現の特徴....辻川美和
・1920年代の邦画伴奏への選曲にみられる折衷的性格－日活配給選曲譜『軍神橘中佐』と楽士手稿選曲譜の分析から....白井史人
・ノン・ダンスにおける生存の美学－フランスのコンテンポラリーダンスにおけるパフォーマンス的転回について....越智雄磨
・日中戦争期の新作レビュウにおける「中国」表象とその背景－宝塚歌劇を中心に....葛西周
・植民地の「現実」との遭遇、『愛と誓ひ』の場合....崔盛旭
・残酷な自嘲性と観客への攻撃－サラ・ケインの未出版モノローグ作品に対する一考察...關智子
・日活作曲部における松平信博の無声映画伴奏－純映画劇運動への音楽的応答...柴田康太郎

発行：2017年３月16日
A5判　354ページ

【會津八一記念博物館】

（1）山口八九子の画境Ⅲ

発行：2016年５月11日
B5判　56ページ
価格：1,000円（税込）

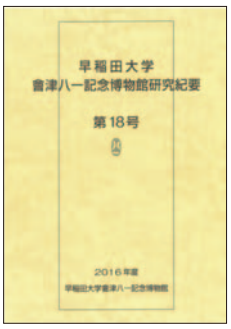
（2）殿塚・姫塚古墳発掘60周年記念 甦る九十九里の埴輪群像 －３Ｄ考古学の挑戦－

発行：2016年10月14日
A4判　26ページ
価格：500円（税込）
芝山町立芝山古墳・はにわ博物館でも販売しております。

（3）安藤更生コレクション受贈記念 會津八一と安藤更生 －學藝の継承－

発行：2016年11月28日
A4判　80ページ
価格：1,000円（税込）

（4）早稲田大学 會津八一記念博物館 紀要第18号



発行：2017年３月25日
A4判　128ページ
価格：1,000円（税込）

【大学史資料センター】

（1）記要 早稲田大学史記要第四十八巻

発行：2017年２月28日
A5判　462ページ
非売品

論文２本 『早稲田大学における金融緊急措置』『旧学制下における早稲田高等学院の設立過程に関する一考察』 シンポジウム「大隈に手紙を寄せた人びと－大隈重信へのまなざし」 小特集「アジア太平洋戦争と早稲田大学」 そのほか、早稲田大学百五十年史編纂事業進捗状況報告、展示報告など収録。

【文化企画課】

（1）キャンパスがミュージアム vol.1《早稲田キャンパス編》

発行：2015年７月31日
A5判　24ページ
価格：200円（税込）
改訂版。初版は2014年４月６日

（2）キャンパスがミュージアム vol.2《大隈庭園編》

発行：2015年７月31日
A5判　13ページ
価格：200円（税込）
改訂版。初版は2014年４月６日

（3）キャンパスがミュージアム vol.3《藪野 健の芸術》

発行：2015年７月31日
A5判　22ページ
価格：200円（税込）
改訂版。初版は2014年６月20日

（4）早稲田に歴史あり１

発行：2015年４月６日
A5判　26ページ
価格：200円（税込）

（5）早稲田に歴史あり２

発行：2015年４月６日
A5判　26ページ
価格：200円（税込）

（6）大隈重信演説談話集

発行：2016年３月16日
A6判　509ページ

岩波書店から刊行された。大隈重信の思想が日本の発展にいかに影響を与えたかを理解し、卒業後の社会生活においても役立てることができるよう、記念会堂（戸山キャンパス）建替えにより全体卒業式を実施できない2016年３月より３年間、早稲田大学校友会の支援を得て、全学部卒業生に配付することとした。

2016年度　オリジナルグッズ

早稲田大学では、多くのオリジナルグッズを制作・販売している。ここでは、特に文化推進部の各機関が2016年度に制作・販売したミュージアムグッズについて記録する。なお、価格は2017年３月31日現在のものである。

【演劇博物館】

（1）卓上カレンダー2017

本文用紙12枚、裏表紙、台紙、帯
W10cm×H21cm×D7cm（使用時）
500円（税込）　※4月1日（土）より、100円に値下げ

（2）グリーティングカード2017

専用封筒、中紙（挨拶状）付き
表紙の錦絵に関する解説付き（日本語・英語）
W21cm×H11cm（二つ折り時）　200円（税込）

（3）ベケット・エコバッグ

A4サイズ　300円（税込）

（4）ぽち袋

３種類（各３枚入り）、裏面に絵に関する簡単な説明付き
W6.8cm×H11.8cm　400円（税込）

（5）ポストカード

20種類　ハガキサイズ　100円（税込）

（6）ポストカード（６枚セット）

各絵柄１枚ずつ、合計６枚
ハガキサイズ　500円（税込）

（7）ポストカードケース

※ケースのみ
素材：ポリプロピレン
W16.5cm×H11.9cm
300円（税込）

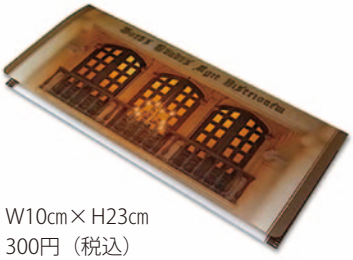
（8）クリアファイル

４種類　A4サイズ
200円（税込）

（9）Wポケット クリアファイル

素材：ポリプロピレン
W16cm×H22.5cm
300円（税込）

（10）チケットホルダー



W10cm×H23cm
300円（税込）

（11）メッセージカード「新富座妖怪引幕」

W42cm×H11cm　200円（税込）

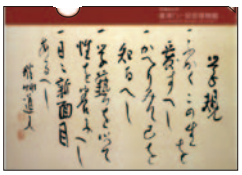
（12）コースター

10枚入り　9cm×9cm
200円（税込）

2016年度　オリジナルグッズ

【會津八一記念博物館】

(1) クリアファイル



２種類（「明暗」「学規」）
A4サイズ　200円（税込）

(2) 一筆箋

300円
（税込）

(3) ポストカード

30種類　ハガキサイズ
100円（税込）

(4) クリアファイル

２種類（「蛤蜊観音図」「布袋すたすた坊主」）
A5サイズ　250円（税込）

(5) ポストカード

３種類　円形　150円（税込）

【文化企画課】

(1) カレンダー

A3判　壁掛け
500円（税込）

(2) クリアファイル

A4サイズ
200円（税込）

(3) ポストカード

全13種類　100円（税込）

(4) ミニクリアファイル

W11.5cm× H16cm
180円（税込）

(5) ミニメモパッド

1冊30枚　W7.5cm× H7.5cm
150円（税込）

《藪野健　大隈講堂 絵画シリーズ》

(6) 大隈講堂 一筆箋

１冊40枚　300円（税込）

(7) 大隈講堂 マグカップ

磁器（美濃焼）
口径8cm×高さ8.8cm
1,200円（税込）

(8) 大隈講堂 トートバッグ（ベージュ）

カラー転写プリント
生地:ナイロン100%（厚手、裏PVC加工）
持ち手：ポリプロピレン100%
W27cm× H36cm× D9cm
2,750円（税込）

(9) 大隈講堂 トートバッグ（ブラック）

カラー転写プリント
生地:ナイロン100%（厚手、裏PVC加工）
持ち手：ポリプロピレン100%
W27cm× H36cm× D9cm
2,250円（税込）　完売

(10) 大隈講堂 ポストカード

100円（税込）

(11)「集り散じて」ポストカード

100円（税込）

(12) ブックカバー（藪野健 WASEDA MAP）

300円（税込）

文化広報

文化推進部の広報活動として、定期的に掲載しているものを紹介する。以下のほか、文化推進部では演劇博物館、會津博物館、文化企画課がイベント案内を中心としたメールニュースを発行している。

1．Waseda Online（ワセダオンライン）（http//www.yomiuri.co.jp/adv/wol）

毎月掲載。2008年５月から、Yomiuri Online（読売新聞社、インターネット版）ワセダオンラインとして掲載。早稲田大学のニュース、研究力などの分野に分かれており、その中の「文化」の欄で記事を掲載している。日本語で掲載された後、翌週からは英語訳でも掲載される。

年　月　日	記　事　題　名	執　筆　者
2016年５月11日	演劇博物館「あゝ新宿―スペクタクルとしての都市」展開催にあたって	岡室美奈子（坪内博士記念演劇博物館館長）
2016年６月８日	『早稲田大学百五十年史』編纂の理念と計画	李　成市（早稲田大学百五十年史編纂委員会委員長）
2016年７月13日	ル・コルビュジエ　ロンシャンの丘との対話　展 ―ル・コルビュジエの現場での息吹・吉阪隆正が学んだものを解く	藤井由理（創造理工学部建築学科准教授）
2016年11月９日	「安藤更生コレクション受贈記念　會津八一と安藤更生 ―學藝の継承―」展に寄せて	徳泉さち（會津八一記念博物館助手）
2017年１月11日	絵本から見る子どもの権利　～スウェーデン人作家の贈り物～	川名はつ子（人間科学学術院教授）
2017年３月８日	占領期早稲田の軌跡をたどる――「占領期の早稲田　1945～1952 ――新生への模索」展に寄せて――	佐川享平（大学史資料センター助手）

2．メールニュース

発行号数	発行日	主　な　記　事
55	４月22日	・講演会「人気作家たちが語る小説の現在、そして未来」 ・世界の子どもたちの笑顔に出会う　写真展「Meet the Smiles 3」 ・早稲田大学坪内逍遙大賞受賞者、伊藤比呂美氏のワークショップ開催 ・中野区・早稲田大学文化交流事業　早稲田大学交響楽団「Maple Concert 2016」 ・早稲田の謎を解き明かす　2016年度ミュージアムスタンプラリー
56	５月12日	・早稲田大学坪内逍遙大賞受賞者、伊藤比呂美氏のワークショップ開催 ・世界の子どもたちの笑顔に出会う　写真展「Meet the Smiles 3」
57	５月13日	・「文化装置としての『源氏物語』―九曜文庫を中心に―」展　本日スタート ・中野区・早稲田大学文化交流事業　早稲田大学交響楽団「Maple Concert 2016」
58	５月27日	・「第７回　早稲田学生文化・芸術祭」開催
59	６月22日	・予想外が待っている「Museum Week 2016」 ・日韓半跏思惟像展示記念　国際シンポジウム「古代日韓の仏教文化」 ・大学史資料センター新収資料展「資料が映す早稲田の今昔」
60	７月29日	・第９回早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業学生演劇公演　劇団森参加作品「上海漂本日記」 ・大学史資料センター新収資料展「資料が映す早稲田の今昔」
61	８月30日	・第９回早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業学生演劇公演　劇団森参加作品「上海漂本日記」 ・20世紀メディア研究会百回記念「雑誌に見る占領期―福島鑄郎コレクションをひらく」 ・大学史資料センター　2016年度秋季企画展「占領期の早稲田1945～1952 ―新生への模索― 」
62	９月30日	・「早稲田文化」Twitterの開始について ・大学史資料センター　2016年度秋季企画展「占領期の早稲田1945～1952 ―新生への模索― 」 ・感動が見つかる12日間―「早稲田文化芸術週間」― ・多和田葉子・高瀬アキ　パフォーマンス＆ワークショップ
63	10月28日	・早稲田大学文化推進部facebookの運用開始について ・大学史資料センター　2016年度秋季企画展「占領期の早稲田1945～1952 ―新生への模索― 」 ・渡部大語のごちゃまぜごはん的書道展 ・吉田鋼太郎　講演会「シェイクスピアを演じる」 ・多和田葉子・高瀬アキ　パフォーマンス＆ワークショップ
64	11月25日	・第16回「石橋湛山記念　早稲田ジャーナリズム大賞」記念講演会　“自由思想者”石橋湛山の生涯とその思想 ・早稲田大学学生によるリーディング公演『ヴェニスの商人』 ・世界ハンセン病デー特別企画　～明日に架ける橋～朗読劇あん ・LINK～ナカノとワセダをつなげるlive～
65	12月22日	・早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業「モノを蒐めるまなざし―早稲田大学會津八一記念博物館蔵のコレクションとともに」 ・世界ハンセン病デー特別企画　～明日に架ける橋～朗読劇あん ・LINK～ナカノとワセダをつなげるlive～
66	2017年１月27日	・早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業「モノを蒐めるまなざし―早稲田大学會津八一記念博物館蔵のコレクションとともに」 ・小説「あん」⇒映画「あん」⇒朗読劇「あん」　完成までの物語
67	2017年３月３日	・早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業「モノを蒐めるまなざし―早稲田大学會津八一記念博物館蔵のコレクションとともに」 ・パプアニューギニアとの出会い　～早稲田大学収蔵コレクション～
68	2017年３月31日	・パプアニューギニアとの出会い　～早稲田大学収蔵コレクション～

3．新聞・雑誌・テレビで取り上げられた主なもの

掲載日・掲載号	媒　　体	記事題名	取り扱い箇所
3月	新美術新聞	「屏風絵　―近世から近代―」	會津博物館
4月5日	日本経済新聞	春秋（コラム内）	大学史資料センター
4月5日	朝日新聞	早大通信教育の企画展（Around Tokyo内）	大学史資料センター
4月16日	東京新聞「東京どんぶらこ」719	2016年　新収蔵品＋新春名品展	演劇博物館
5月発行	東京散策乗物ガイド	見学先一覧　早稲田大学坪内博士記念演劇博物館	演劇博物館
5月5日	東京MX「東京インフォメーション」	GW特集「都電荒川線～早稲田～」	演劇博物館
5月9日	毎日新聞	大隈祭　500人出席　佐賀市	大学史資料センター
5月9日	毎日新聞	伊藤比呂美氏ワークショップ「日本の古典を現代語に訳してみる」	文化企画課
5月18日	洋泉社MOOK「図書館へ行こう!!」	ようこそ、専門図書館の世界へ「早稲田大学坪内博士記念演劇博物館　図書館（エンパク）」	演劇博物館
5月18日	朝日新聞	「近代建築の父」コルビュジエ工作品群　西洋美術館世界遺産へ	會津博物館
6月2日	東京新聞	「あゝ新宿―スペクタクルとしての都市」展	演劇博物館
6月2日	シアターガイド7月号	「あゝ新宿―スペクタクルとしての都市」展	演劇博物館
6月8日	NHK「首都圏ネットワーク」	「あゝ新宿―スペクタクルとしての都市」展	演劇博物館
6月14日	朝日新聞	「あゝ新宿―スペクタクルとしての都市」展	演劇博物館
6月18日	ピクトアップ	新宿＝文化だった頃 演劇博物館　特別展「あゝ新宿―スペクタクルとしての都市」展来訪記	演劇博物館
6月18日	東京新聞	「文化の街・新宿の歴史と未来～街を支えるリーダーたち～」	演劇博物館
6月20日	日本カメラ7月号	早稲田大学演劇博物館で写真や映像とともに「新宿」を考察する特別展を開催中	演劇博物館
6月20日	月刊美術7月号	日野原重明「アートで生き生き」144回　人間国宝の三味線	演劇博物館
6月22日	朝日新聞	日韓半跏思惟像展示記念　国際シンポジウム「古代日韓の仏教文化」	文化企画課
6月24日	「週刊ポスト」7/4号	坪内祐三の美術批評　眼は行動する 「あゝ新宿―スペクタクルとしての都市」展	演劇博物館
6月24日	読売新聞	中村吉右衛門展	演劇博物館
6月25日	東京新聞	名場面の写真や舞台衣装展示　早大演博で「吉右衛門展」	演劇博物館
6月28日	朝日新聞	東京）新宿が熱かった時代、写真や映像で回顧展	演劇博物館
6月29日	東京新聞	「ダダイズム100周年と宇宙」	會津博物館
7月1日	婦人画報	歌舞伎の新聞　中村吉右衛門展	演劇博物館
7月3日	月刊誌「東京人」8月号	「あゝ新宿―スペクタクルとしての都市」展	演劇博物館
7月5日	朝日新聞	「ダダの精神　いま問い直す　芸術思想誕生から100年　多彩な催し」	會津博物館
7月6日	読売新聞	「誕生100年「ダダ」とは何だったのか」	會津博物館
7月7日	東京新聞	「中国陶磁の流れ」	會津博物館
7月11日	学習院大学新聞	異世界へ踏み込む　早稲田大学演劇博物館	演劇博物館
7月23日	日本経済新聞	「ダダイズム今を問う」	會津博物館
7月25日	朝日新聞	「今こそトリスタン・ツァラ」	會津博物館
7月30日	朝日新聞 夕刊	蜷川幸雄34歳　幻の舞台映像　早大演劇博物館で一部公開　来月7日まで	演劇博物館
8月	ミセス	「ル・コルビュジエ　ロンシャンの丘との対話展」	會津博物館
8月	Casa BRUTUS	「ダダイズム誕生100年」	會津博物館
8月6日	北海道新聞	「初期日本映画物語る750点」早大・演劇博物館研究進める	演劇博物館
8月24日	読売新聞	「極め付き名場面」「怪談牡丹燈籠」の「おみね殺し」	演劇博物館
8月27日	房日新聞	鴨川市・早稲田大学交流事業「第19回おもしろ科学実験教室」	文化企画課
9月号	東京かわら版	「落語とメディア」展と関連イベント	演劇博物館
9月1日	新美術新聞	「近世の禅書画　―白隠とその会下―」	會津博物館
9月2日	中日新聞	杉原千畝氏が縁　合唱通じて交流―早大生　八百津の中学生に指導	文化企画課
9月2日	岐阜新聞	早大生が合唱指導　千畝氏が縁　八百津町の中学校で交流	文化企画課
9月12日	毎日新聞夕刊	「落語とメディア」展	演劇博物館
9月14日	ステージナタリー	古典と現代の融合を語る 野村萬斎「狂言とシェイクスピアの出会い」	演劇博物館
10月6日	東京新聞	「近世の禅書画　―白隠とその会下―」	會津博物館
10月7日	ITAN 34号	企画展「落語とメディア」開催中	演劇博物館
10月7日	東京新聞	「児童文学の父」小川未明を語る―10日、早稲田大でフォーラム	文化企画課
10月7日	週刊読書人	小川未明文学賞25周年記念フォーラム	文化企画課
10月8日	新潟日報	小川未明テーマに東京でフォーラム	文化企画課
10月8日	上越タイムス	小川未明記念フォーラム　10日に早稲田大　詩朗読やフラメンコ上演	文化企画課
10月12日	新潟日報	未明文学　雪国が育む　母校早大でフォーラム　研究者ら作風を分析	文化企画課
10月15日	月刊書道界	「近世の禅書画　―白隠とその会下―」	會津博物館
10月19日	朝日新聞	落語公演「日本演芸若手研精会 in 早稲田」	演劇博物館
10月19日	東京の小さなミュージアム	劇場をイメージした館で古今東西の演劇を紐解く	演劇博物館
10月21日	夕刊フジ	「落語とメディア」展、落語公演「日本演芸若手研精会 in 早稲田」	演劇博物館
10月25日	読売新聞 夕刊	「沙翁復興 ― 逍遙から NINAGAWA まで」展	演劇博物館

掲載日・掲載号	媒　体	記事題名	取り扱い箇所
10月26日	読売新聞	「落語とメディア」展	演劇博物館
10月29日	oedo LIVING	「おとな時間in早稲田の杜」新宿文化の過去・現在・未来、そして早稲田演劇―岡室美奈子館長	演劇博物館
10月30日	東京ミュージアムさんぽ	演劇資料ならココ！早稲田大学坪内博士記念演劇博物館	演劇博物館
11月８日	週刊朝日	司馬遼太郎の言葉―漱石と鷗外の「本郷界隈」―第５回「逍遥と子規」児玉副館長	演劇博物館
11月10日	東京レトロ建築さんぽ	エリア別　レトロ建物紹介	演劇博物館
11月17日	朝日新聞 夕刊	400年　見果てぬシェークスピア 「沙翁復興 ― 逍遙からNINAGAWAまで」展	演劇博物館
12月１日	東京新聞	情報の道しるべ　ほっとなび　ぎゃらりーワイド 「落語とメディア」展	演劇博物館
12月２日	東京人2017年１月号	街―東京ネットワーク「落語とメディア」展	演劇博物館
12月９日	NHK-Eテレ「にっぽんの芸能」	生誕200年河竹黙阿弥の世界	演劇博物館
12月12日	AERA	落語はいつでも真新しい　―メディアと共に歩む話芸の現在― 「落語とメディア」展	演劇博物館
12月15日	書道美術新聞	「會津八一と安藤更生」展開幕	會津博物館
12月20日	新聞協会報	「落語とメディア」展	演劇博物館
12月22日	読売新聞 夕刊	「落語とメディア」展	演劇博物館
12月23日	NHKラジオ第１	「沙翁復興 ― 逍遙からNINAGAWAまで」展	演劇博物館
12月25日	日本経済新聞	「落語とメディア」展	演劇博物館
12月27日	hanako	「落語とメディア」展	演劇博物館
2017年１月５日	朝日新聞 夕刊	落語とメディア　変遷たどる展示	演劇博物館
2017年１月７日	東京新聞	「冨岡コレクションの近代絵画」	會津博物館
2017年１月24日	朝日新聞	世界ハンセン病デー特別企画　～明日に架ける橋～朗読劇あん	文化企画課
2017年３月４日	東京新聞	2017年　新収蔵品展	演劇博物館
2017年３月７日	朝日新聞	2017年　新収蔵品展	演劇博物館
2017年３月24日	夕刊フジ	2017年　新収蔵品展	演劇博物館
2017年３月25日	東京新聞	パプアニューギニアとの出会い　～早稲田大学収蔵コレクション～	文化企画課

4．早稲田大学文化資源情報ポータル　（http://www.enpaku.waseda.ac.jp/db/cr/portal/）

1．目　的

早稲田大学の各機関ごとに現在公開している文化資源データベースを横断的に検索できるようにして、貴重資料をネット上で検索・閲覧できるようにすること、また個々の資料の関連性を把握できるようにすることにより、教育・研究に役立つだけでなく広く社会に本学の文化資源情報を発信することを目的としている。

2．主要機能・特徴

坪内博士記念演劇博物館（10データベース）、會津八一記念博物館（10データベース）、大学史資料センター（４データベース）の各データベースを一元的に横断検索し、閲覧することができるシステムである。閲覧できる内容は、データベース化された文化資源の学術的な解説、画像などである。

例えば「大隈重信」と入力すると、該当する資料を所蔵する機関、そのデータベース名、件数が横断検索される。その検索結果からさらに具体的な作品タイトル、作者等が表示され、最終的に個々の文化資源情報に到達することができる。

現状では全ての収蔵品がデジタル化されているわけではないが、今後さらに新規データベースを構築して順次追加していく予定である。また上記三機関が機動的に文化資源をWeb公開するための共通プラットフォームの構築を進めていくことも計画している。

文化施設

【博物館・資料センターの概要】

名　称	坪内博士記念演劇博物館	會津八一記念博物館	大学史資料センター
所在地	5号館	2号館	79号館
概　要	1階：シェイクスピアの世界 六世中村歌右衛門記念特別展示室 2階：逍遙記念室 民俗芸能 企画展示室 3階：日本の演劇 （古代、中世、近世、近代、現代） 和書閲覧室（5号館1階） 外国語図書閲覧室（6号館3階） AVブース（6号館3階）	1階：企画展示室 富岡重憲コレクション展示室 大隈記念室 （大学史資料センター所管） 2階：常設展示室 ・東洋美術資料 ・近代美術資料 ・考古資料 ・アイヌ民族資料 ・書画資料	5階：レファレンスルーム ・歴史的資料 ・高等教育出版物 ・高等教育関係資料
お問い合わせ	Tel：03-5286-1829 E-mail：enpaku@list.waseda.jp	Tel：03-5286-3835 E-mail：aizu@list.waseda.jp	Tel：042-451-1343 E-mail：archives@list.waseda.jp

【文化施設の概要】

名　称	大隈記念講堂		小野記念講堂	ワセダギャラリー	125記念室
	大講堂	小講堂			
所在地	21号館1階	21号館B1階	27号館B2階	27号館B1階	26号館10階
利用目的	式典 講演・討論 舞台・上演	講演・討論 舞台・上演	講演・討論 演劇・映画	小規模な企画展 写真・絵画など	展覧会 美術品・貴重品
座席数	1,121席（車椅子用2席）	300席（車椅子用1席）	206席 （最小161席・最大236席）	―	―
主要設備	舞台機構設備 舞台照明設備 映像音響設備 同時通訳設備 ネットワーク設備	舞台機構設備 舞台照明設備 映像音響設備	舞台機構設備 舞台照明設備 映像音響設備 ネットワーク設備	常設展示壁 可動式展示壁 展示台 ディスプレイ	展示ケース 映像音響設備
付属施設	控室 調整室 調光室 映写室 同時通訳ブース	控室 調整室	楽屋・準備室 調整室	―	―
その他	貸出備品 貸出用掲示物	貸出備品 貸出用掲示物	貸出備品 貸出用掲示物	貸出備品 貸出用掲示物	※文化推進部主催 展覧会のみ

※「125記念室」は貸出の対象ではありません。

文化推進部は「大隈記念講堂」「小野記念講堂」「ワセダギャラリー」を管理している。学内行事を開催することを優先しているが、そのほか学生団体を含め、学内団体のみならず学外の機関・団体にも広く利用されている。また、大隈記念講堂については外部からの多くの見学者が訪れている。

1．大隈記念講堂

大隈重信を偲び、創立45周年の1927（昭和2）年10月15日に竣工された。創立125周年にあたる2007年10月に改修工事を終え、リニューアルオープンされた。全館空調設備が整えられ、情報系の設備も完備した多様な用途に応えられる施設となった。早稲田大学のシンボルとして、大隈記念講堂は大講堂・小講堂とも学内外の機関から国際会議、演劇、コンサート、映画などに利用されている。2007年12月に国の重要文化財に指定された。

2．小野記念講堂

正門前の歴史的景観ゾーン整備の一環として、2005年に建設された小野梓記念館（27号館）の地下2階にオープンした。「文化活動の成果を発表し、さらに世界の文化と交流を図るためのホール」にすることを目標にしている。

3．ワセダギャラリー（56.35㎡）

2014年秋に小野梓記念館地下1階にリニューアルオープン。写真展、絵画展、書展などに利用されている（学内箇所・教職員利用可）。

文化施設

■施設利用の状況

2016年度 文化施設	使用日数※1	利用団体内訳				その他※2
		利用件数	学内箇所	学生団体	学外団体	
大隈記念講堂大講堂	261日	227件	190件	34件	3件	114件
大隈記念講堂小講堂	236日	189件	167件	22件	0件	82件
小野記念講堂	218日	158件	135件	19件	4件	88件
ワセダギャラリー※3	217日	12件	12件	―	―	―

※1 使用日数には、本番当日だけでなくリハーサル、設営準備、撤収日も含む。
※2「その他」とは下見、見学、施設点検、定期清掃などが含まれる。
※3 学内箇所のみ利用可能である。
※4 大隈記念講堂・小野記念講堂については、1～4月と8月は公式行事、施設点検、定期清掃などのメンテナンスのため原則外部団体への貸出は行っていない。

■ワセダギャラリー使用状況

イベント名	開催期間	主催
早稲田スポーツ展～仰ぐは同じき理想の光～	3月24日～4月26日	競技スポーツセンター
Meet the Smiles 3	5月6日～19日	文化企画課・理工センター教学支援課
写真展 “Nowhere people: the World's Stateless” 「考えてみてください　国籍がないことを～世界の無国籍たち～」	5月23日～27日	平山郁夫記念ボランティアセンター
第7回　早稲田学生文化・芸術祭	5月30日～6月13日	学生部・文化推進部
オープンカレッジ木版画展	6月14日～18日	エクステンションセンター
長崎原爆　写真展	7月8日～28日	国際コミュニティセンター
早稲田文化芸術週間（小川未明と早稲田の児童文学 ギャラリー展示）	10月10日～17日	文化推進部
オープンカレッジ芸術展（水彩画展・写真展）	11月8日～29日	エクステンションセンター
白バラ　―ヒトラーに抗した学生たち―	12月6日～22日	村上公子研究室
教育学部博物館実習授業成果展示	2017年1月11日～28日	教育学部博物館実習Gクラス
絵本から見る子どもの権利　～スウェーデン人作家の贈り物～	2017年2月1日～28日	川名はつ子研究室
早稲田スポーツ展～仰ぐは同じき理想の光～	2017年3月24日～4月28日	競技スポーツセンター

大隈記念講堂
大講堂

大隈記念講堂
小講堂

小野記念講堂

ワセダギャラリー

講堂設備技能判定会・初心者説明会

学生団体が大隈記念講堂および小野記念講堂に設置されている照明などの各設備を利用するにあたり、技能判定会の受験および合格を義務付けている。専門技師が各講堂設備を使いこなせる技術力の判定を行い、技量のある学生に調整室への入室許可を与えている。年2回を目安に開催している。

また、2010年度より、初心者学生向けの照明・音響設備に関する説明会を実施している。

(1) 講堂設備技能判定会

■大隈記念講堂（照明設備）
2017年2月27日、3月7日（参加者19名）

■小野記念講堂（照明設備）
2017年3月6日、3月21日（参加者18名）

(2) 講堂設備初心者説明会

■学生向け（一般学生および早稲田学生・文化芸術祭参加団体向け、於小野記念講堂）
【2015年度】 2016年3月15日（参加者3名）
【2016年度】 受講者なし

■文化推進部【文化企画課所管】

1．三機関長協議会

（1）開催記録

11月21日

（2）委員

（2017年３月31日現在）

No.	氏　名	所属・役職
1	李　　成市	文化推進担当理事
2	十重田裕一	文化推進部長
3	石見　清裕	文化推進部副部長
4	岡室美奈子	坪内博士記念演劇博物館館長
5	塚原　　史	會津八一記念博物館館長
6	大日方純夫	大学史資料センター所長

2．出版企画委員会

（1）開催記録

第１回　７月29日

第２回　2017年１月31日

（2）委員

委員会は、出版企画委員会設置要綱の規定による本部役職委員４名、各学術院長推薦委員10名、文化推進を担当する理事推薦委員２名の合計16名で構成されている。嘱任期間は2016年５月１日～2018年４月30日である。なお、出版企画委員は非公開のため、省略する。

■演劇博物館

1．坪内博士記念演劇博物館協議員会

（1）開催記録

第１回　５月16日　　第２回　７月６日　　第３回　10月14日　　第４回　2017年２月23日

（2）委員

（2017年３月31日現在）

No.	氏　名	所属・役職	選出区分
1	岡崎　由美	文学学術院教授	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館規則第９条一号による委員（文学学術院選出）
2	小松　　弘	文学学術院教授	
3	武田　　潔	文学学術院教授	
4	竹本　幹夫	文学学術院教授	
5	藤井慎太郎	文学学術院教授	
6	水谷　八也	文学学術院教授	
7	荻野　静男	政治経済学術院教授	第９条二号による委員（第一号以外の学術院・学校選出）
8	上村　達男	法学学術院教授	
9	丸川　誠司	教育・総合科学学術院教授	
10	猪股　正廣	商学学術院教授	
11	秋葉　裕一	理工学術院教授	
12	笹原　宏之	社会科学総合学術院教授	
13	中村　　要	人間科学学術院准教授	
14	杉山　千鶴	スポーツ科学学術院教授	
15	三神　弘子	国際学術院教授	
16	小向　和誠	高等学院教諭	
17	吉田　　茂	本庄高等学院教諭	
18	保坂　　猛	芸術学校准教授	
19	塚原　　史	會津八一記念博物館館長	第９条三号による委員
20	岡室美奈子	坪内博士記念演劇博物館館長	第９条四号による委員
21	児玉　竜一	坪内博士記念演劇博物館副館長	

■會津八一記念博物館

1．會津八一記念博物館協議委員会

(1) 開催記録

第１回　５月18日　　第２回　11月16日　　第３回　2017年３月７日

(2) 委員

（2017年３月31日現在）

No.	氏　名	所属・役職	選出区分
1	ロペス・アルフレド	政治経済学術院教授	第10条一号による委員（学術院選出）
2	谷　　昌親	法学学術院教授	
3	肥田　路美	文学学術院教授	
4	内山　精也	教育・総合科学学術院教授	
5	小澤　悦夫	商学学術院教授	
6	永田　　靖	理工学術院教授	
7	卯月　盛夫	社会科学総合学術院教授	
8	谷川　章雄	人間科学学術院教授	
9	太田　　章	スポーツ科学学術院教授	
10	岡村　三郎	国際学術院教授	
11	近藤　二郎	文学学術院教授	第10条二号による委員（館長推薦）
12	坂上　桂子	文学学術院教授	
13	高橋龍三郎	文学学術院教授	
14	丹尾　安典	文学学術院教授	
15	成澤　勝嗣	文学学術院教授	
16	山田　磯夫	文学学術院教授	
17	千葉　俊二	教育・総合科学学術院教授	
18	内田　悦生	理工学術院教授	
19	古谷　誠章	理工学術院教授	
20	下野　玲子	會津八一記念博物館主任研究員	
21	深澤　良彰	図書館長	第10条三号による委員
22	岡室美奈子	坪内博士記念演劇博物館館長	
23	大日方純夫	大学史資料センター所長	
24	李　　成市	文化推進担当理事	第10条四号による委員
25	古谷　修一	教務部長	第10条五号による委員
26	十重田裕一	文化推進部長	
27	塚原　　史	會津八一記念博物館館長	第10号六号による委員
28	川尻　秋生	會津八一記念博物館副館長	
29	今村　昭一	會津八一記念博物館事務長	第10号七号による委員

■大学史資料センター

1．大学史資料センター運営委員会

(1) 開催記録

第１回　６月８日　　第２回　11月23日

(2) 委員

（2017年３月31日現在）

No.	氏　名	所属・役職	選出区分
1	李　　成市	文化推進担当理事	第８条一号による委員
2	川口　　浩	政治経済学術院教授	第８条二号による委員
3	立花　英裕	法学学術院教授	
4	森田　貴子	文学学術院准教授	
5	湯川　次義	教育・総合科学学術院教授	
6	横山　将義	商学学術院教授	
7	前田　惠一	理工学術院教授	
8	劉　　傑	社会科学総合学術院教授	
9	竹中　宏子	人間科学学術院准教授	
10	石井　昌幸	スポーツ科学学術院准教授	
11	早瀬　晋三	国際学術院教授	
12	岡本　宏一	校友会常任幹事・総長室長	第８条三号による委員
13	沖　　清豪	文学学術院教授	第８条四号による委員
14	北河　賢三	教育・総合科学学術院教授	
15	大日方純夫	大学史資料センター所長	第８条五号による委員
16	古谷　修一	教務部長	
17	深澤　良彰	図書館長	
18	塚原　　史	會津八一記念博物館館長	
19	十重田裕一	文化推進部長	
20	根本　　進	総務部長	
21	長谷川友彦	大学史資料センター事務長	

2．早稲田大学百五十年史編纂委員会

(1) 開催記録

第１回　６月29日　　第２回　11月29日

(2) 委員

（2017年３月31日現在）

No.	氏　名	所属・役職	選出区分
1	李　　成市	文化推進担当理事	第４条一号による委員
2	佐藤　正志	教務担当理事	
3	花尾　能成	総務担当理事	
4	大日方純夫	大学史資料センター所長	第４号二号による委員
5	十重田裕一	文化推進部長	第４号三号による委員
6	恩藏　直人	広報担当理事・広報室長	
7	深澤　良彰	図書館長	
8	川口　　浩	政治経済学術院教授	第４条四号による委員
9	土田　和博	法学学術院教授	
10	真辺　将之	文学学術院教授	
11	湯川　次義	教育・総合科学学術院教授	
12	横山　将義	商学学術院教授	
13	武藤　　寛	理工学術院准教授	
14	劉　　傑	社会科学総合学術院教授	
15	加藤　茂生	人間科学学術院専任講師	
16	石井　昌幸	スポーツ科学学術院准教授	
17	佐久間まゆみ	国際学術院教授	
18	浅古　　弘	法学学術院教授	第４条五号による委員
19	沖　　清豪	文学学術院教授	

2016年度　統　計

■各機関の主管施設の利用状況

主管箇所	演劇博物館	會津八一記念博物館	大学史資料センター	文化企画課
展示室名	演劇博物館（5号館）	會津八一記念博物館（2号館）	大隈記念室（2号館1階）	125記念室（26号館10階）
開館日数	261	246	246	153
入館者数	60,653	48,203	—	6,041
展覧会企画件数	7	11	4	7
展覧会来場者数 ※1	127,514	54,500	26,549	6,041

■各機関文化事業および教育活動の実績総数

主管箇所	演劇博物館	會津八一記念博物館	大学史資料センター	文化企画課
催し物件数	40	1	2	14
催し物来場者数 ※2	8,801	211	104	24,801
各箇所設置および協力授業コマ数 ※3	7	45	2	0
各箇所設置および協力授業登録者人数 ※3	563	1,518	483	0
各箇所主催および協力課外活動実施数 ※4	89	158	1	7
各箇所主催および協力課外活動参加人数 ※4	10,372	3,310	493	2,900

※1 展覧会には常設展と企画展が含まれる。
※2 催し物は学内外での公演・講演会・（研究）公開講座とする。
※3 各箇所設置および協力授業のコマ数は学内設置の授業のコマ数とし、登録者数は設置科目の人数のほか、学部・大学院授業への協力の授業の受講生数を示す。
※4 各箇所主催および協力課外活動実施数は、見学授業・修学旅行・学校見学会など課外授業見学者の受け入れの件数のほか、学内外の生涯学習への協力（エクステンションや市民講座）、共催や地域交流事業の件数とし、参加人数は、上記定義に関連する事業に参加した人数とする。

■各機関学内外出品・協力件数

主管箇所	演劇博物館	會津八一記念博物館	大学史資料センター	文化企画課
各主管箇所出品・展示協力件数	7	10	8	1

■図書資料・AV資料の受け入れ状況

主管箇所	和書	アジア圏図書（中国語・韓国語）	洋書	貴重書	AV資料	受け入れ図書総計	寄贈資料点数（図書以外）※6
演劇博物館 ※5	2,265	213	368	298	857	4,001	43
會津八一記念博物館	654	18	4	0	0	676	398
大学史資料センター	1,124	0	12	11	8	1,147	869

※5 演劇博物館は、演劇・映像関係図書収蔵の図書館を併設し、和書・アジア圏図書・洋書・貴重書・AV資料などを閲覧できる。
※6 寄贈資料点数は、図書以外の寄贈資料の点数の総計である。なお、演劇博物館の点数については、件数を示している。

文化施設マップ・連絡先一覧

https://www.waseda.jp/culture/

1 大隈記念講堂

2 坪内博士記念演劇博物館

3 會津八一記念博物館

4 大隈記念室

5 125記念室（大隈記念タワー）

6 小野記念講堂

7 ワセダギャラリー

8 大学史資料センター

早稲田大学　文化推進部

文化企画課

Tel：03-5272-4783　Fax：03-5272-4784
https://www.waseda.jp/culture/　E-mail：art-culture@list.waseda.jp

坪内博士記念演劇博物館

Tel：03-5286-1829　Fax：03-5273-4398
http://www.waseda.jp/enpaku/　E-mail：enpaku@list.waseda.jp

會津八一記念博物館

Tel：03-5286-3835　Fax：03-5286-1812
https://www.waseda.jp/culture/aizu-museum/　E-mail：aizu@list.waseda.jp

大学史資料センター

Tel：042-451-1343　Fax：042-451-1347
https://www.waseda.jp/culture/archives/　E-mail：archives@list.waseda.jp

早稲田大学 文化推進部年報 2016年度版

2017年6月15日発行　発行人／十重田裕一　企画・編集・発行／早稲田大学文化推進部